



# TBM COUNCIL

## TBMの分類法

### バージョン4.0

2020年12月16日

本稿では、テクノロジー・ビジネス・マネジメント（TBM）分類法の詳細について説明する。この文書はTBM Councilのコミュニティサイト([www.TBMConnect.org](http://www.TBMConnect.org))を通じて公開されており、全メンバーが読んで情報を利用することができコミュニティ.tbmcouncil.org については、本文書の最終ページを参照するか、TBM Council Standards Committee Charterを参照されたい。この憲章はTBM CouncilのWebサイトまたは[standards@tbmcouncil.org](mailto:standards@tbmcouncil.org)までお問い合わせください。

#### 改訂履歴

日付	変更の理由	バージョン
10/31/2016	委員会の承認と理事会の承認を得て最終改訂を行う。	V2.0
03/18/2018	委員会の承認と理事会の承認を得て最終改訂を行う。	V2.1
11/02/2018	委員会の承認と理事会の承認を得て最終改訂を行う。	V3.0
04/19/2019	ハイパフォーマンス・コンピューティング	V3.0.1
07/18/2019	不足していた「基盤プラットフォーム」、「オーダー管理」、施設・設備の保守・修理」の定義を追加。	V3.0.2
12/16/2020	委員会の承認と理事会の承認を得て最終改訂を行う。	V4.0

注：完全な文書履歴は標準化委員会によって管理され、TBM協議会の「TBM Framework & Taxonomy」[コミュニティスペース](#)で。見ることができる[会員登録](#)が必要です。



## 目次

TBM分類法の紹介 .....	1
TBMタクソノミーのビューとレイヤーの説明 .....	2
財務レイヤー：コストプールとサブプール .....	3
ITレイヤー：タワーとサブタワーの定義 .....	7
ビジネスレイヤーソリューションの定義 .....	15
デリバリー .....	18
インフラ .....	22
プラットフォーム .....	25
職場 .....	27
事業内容 .....	29
シェアード&コーポレート .....	31
ビジネスレイヤービジネスユニットとビジネス能力 .....	39
TBM分類法の範囲と追加定義 .....	42
固定費と変動費 .....	42
直接経費、消費経費、間接経費 .....	43
事業の運営、成長、変革のための支出 .....	44
認可された技術と認可されていない技術 .....	44
TBMの分類法を拡張する .....	45
技術経営協議会について .....	47
TBM評議会基準委員会について .....	47

## TBM分類法の紹介

テクノロジー・ビジネス・マネジメント（TBM）は、CIO、CTO、その他のテクノロジー・リーダーによって制定された価値管理のフレームワークである。コスト、消費、パフォーマンスの透明性を基盤として、TBMはテクノロジー・リーダーとそのビジネス・パートナーに、ビジネスに沿った意思決定を共同で行うために必要な事実を提供する。このような意思決定は需給にまがり、事業支出を最適化しビジネス変革を加速するために必要な財務とパフォーマンスのトレードオフを可能にする。このフレームワークは、CIO、CTO、その他のビジネスリーダーからなるテクノロジー・ビジネス・マネジメント協議会（Technology Business Management Council）のコミュニティによって支えられている。

IT部門、財務部門、事業部門のリーダー間の調整を図るため、TBMは、コストソース、テクノロジー、ITリソース（タワー）、およびソリューションを記述するための標準的な分類法を提供します。TBMの分類法は、テクノロジー、タワー、ソリューションを同業他社やサードパーティのオプション（パブリッククラウドなど）と比較する機能を提供します。企業が財務報告の標準的な慣行として、一般に公正妥当と認められた会計原則（GAAP）や国際財務報告基準（IFRS）に依存しているのと同様に、TBM分類法は、ITコストやその他の指標を報告する一般に公正妥当と認められた方法を提供します。TBMタクソノミーの簡単な図を以下に示す。

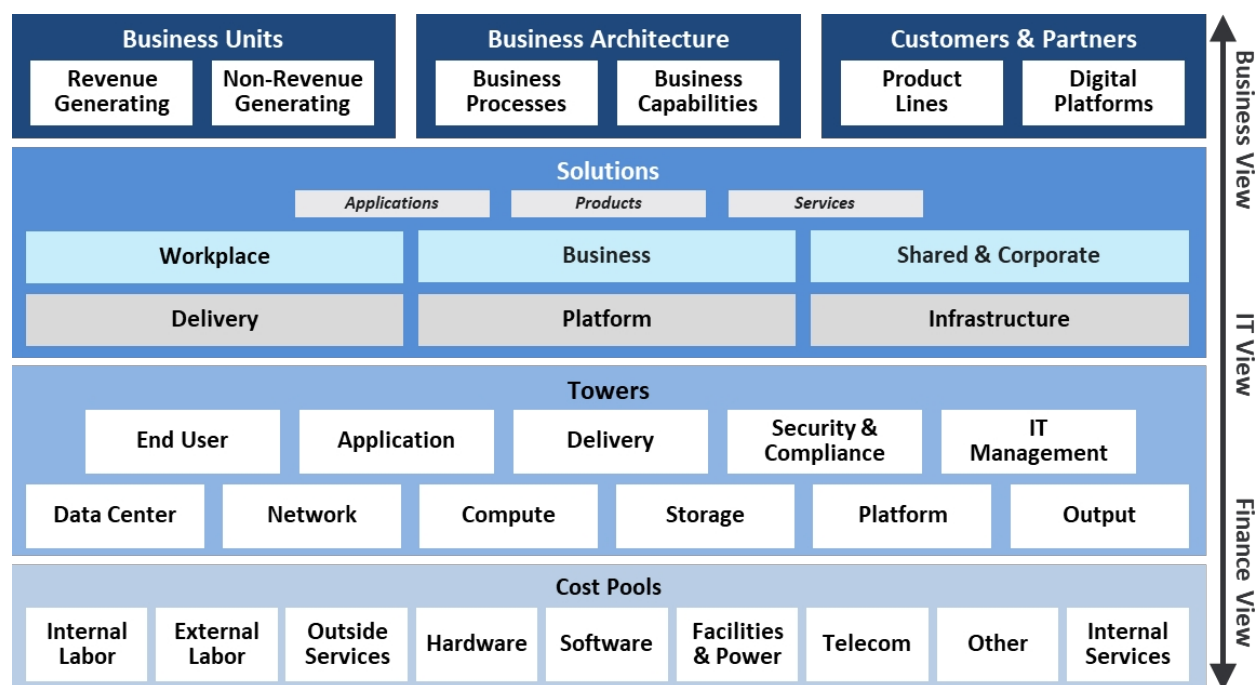


図1: TBMの分類法（概要図）

TBMの分類法は、コストやその他の指標のモデリングをサポートするために必要である。TBMモデルとは、技術リーダーが調達するハードウェア、ソフトウェア、労働力、外部サービス、設備から、開発、提供、サポートするソリューションに至るまで、コストとリソースの消費をその発生源から用途までマッピングし、配分するソフトウェアである。要するに、このモデルは、タクソノミーのレイヤー間（例えば、タワーズからソリューションへ）を翻訳するものである。TBMモデル自体には、タクソノミーのオブジェクトとレイヤーに加え、TBMの価値対話に必要な透明性を生み出すために必要なデータ、割り当てルール、レポートング、メトリクスが含まれる。

TBMモデル・ソフトウェアは、ITコスト・コンポーネントやオブジェクト・定義がしばしばばらばらで論争になるのを、TBMタクソノミーを使って一致させる。これにより、例えばサーバーとコンピュータという用語が、すべての人（IT部門と非IT部門）に理解されるような共通言語が構築される。

利害関係者も同様)を同じ意味とし、同じ方法で算出された同じ種類の基礎費用を含むものとする。

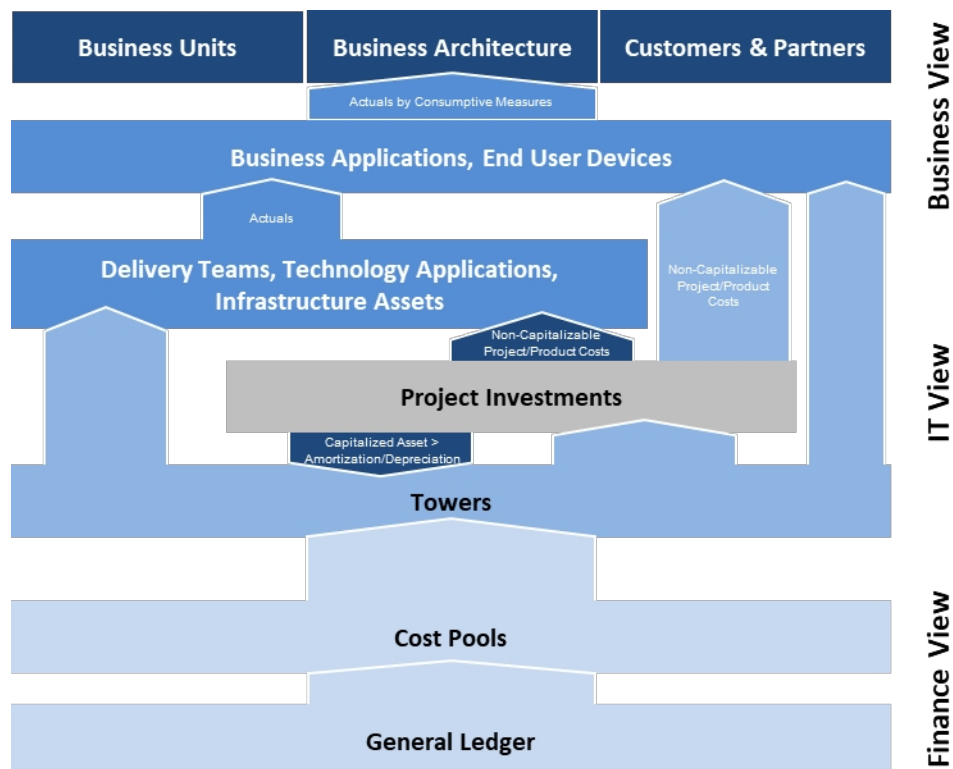


図2: 概念的TBMモデル

TBMの分類法と使うことで、CIOは、例えば、ユーザーの需要が、アプリケーション、サービス、製品、その他のテクノロジー・アーキテクチャのコストをどのように形成するかを説明することができる。また、IT部門以外のリーダーも、同じデータと洞察を利用して、消費（需要）を導くことができる。

さらに重要なことは、これらのTBMツールによってITコストのベンチマークやトレンド分析が可能になることである。これには、仮想Windowsサーバーや1テラのティア1ストレージといったテクノロジーの単価を、事業部、ベンダー、データセンターごとに比較することが含まれる。また、長期的な単位コストの比較や、従業員一人当たりのITコストや、IT支出全体に占めるストレージ・コストの割合のような比率を見ることもできます。

これらの強力なツールは、、、営利を問わず、あらゆる業種にまたがる何千もの組織、そして世界中の多様な組織を含む民間および公共部門で、より広範囲に使用されている。

本書の焦点はTBM分類法である。しかし、TBM分類法とTBMモデルがどのように連動し、意思決定に必要なビュー（すなわち、レポートやメトリクス）を作成するのかを理解することが重要である。

## TBM分類法のビューとレイヤーの説明

タクソノミーの4つのレイヤーによって3つのビューが：財務、IT、ビジネスである。これらのビューは、意思決定者にとって意味のあるレポートや測定基準を通じて、TBMモデル（ソフトウェア）によって実現される。例えば、TBMモデルを使用することで、財務マネージャーは、財務用語として意味のあるレポートや測定基準を受け取ることができます（つまり、総勘定元帳のような財務報告システムにリンクしているもの）。

このモデルは、分類法の基礎となるファイナンスのビューから始まる：

- **財務：**最下層のレイヤーは、企業の総勘定元帳を真実の財務ソースとすることから始まるが、他のコストソース（例：固定資産台帳、給与システム）を含む場合もある。これにより、ハードウェア、ソフトウェア、内部労働力、外部労働力、外部サービス、設備・電力、通信、内部サービス、その他といった**コストプールの標準セット**が提供される。コストプールは、コスト配分を容易にするだけでなく、レポーティングを向上させる。なぜなら、モデルを通じてコストプールをトレースすることで、コストの構成を明らかにし、構成の比較可能性を高めることができるからである（例えば、このサービスにはどれだけの内部労働力があるのか、あのサービスにはどれだけの内部労働力があるのか）。
- **IT：**ミドルレイヤーには、サーバー、ストレージ、音声・データネットワーク、アプリケーション開発、サポートなど、標準的な**タワーとサブタワー**のセットが含まれる。これらはほぼすべての企業で共通であり、**ソリューション**のリソースまたは基本的な構成要素とみなすことができる。タワーの定義は標準的であるが、実際には様々な形態がある。ハードウェア、ソフトウェア、社内の労働力、設備や電力を使って社内で調達する場合もあれば、外部で調達する場合もある（外部サービス、外部労働力など）。いずれにせよ、この見方により、ITリーダーはITテクノロジーとサービス提供の費用対効果を評価することができる。
- また、多くの企業にとって、ITは**技術的なソリューション**であり、インフラストラクチャー・サービスやプラットフォーム・サービスといった技術サービスの提供されることが多い。
- **ビジネス：**最上位のレイヤーでは、この分類法は、より上位のレイヤーの**ビジネスユニット、ビジネスアーキテクチャー、顧客とパートナーとともに**、標準的ではあるが一般的なソリューションカテゴリーのセットを提供する。TBM協議会のワークグループは、この標準的な分類法を拡張し、同じ一般原則に従って業界固有の要素を作成した。これにより、共通のアプリ、サービス、機能を介して他のレイヤーで可能な業界横断的な失うことなく、対象業界内でより意味のある報告や比較が可能になります。

この分類法は、IT部門と金融部門のリーダーが、インフラ、アプリケーション、サービス、製品を標準的なカテゴリーに分類することを可能にするため、これらのバケットを意味のある言葉で議論することができます。

- ビジネスリーダーにとって**重要なこと**である。

以下のセクションでは、TBM分類法の財務、IT、ビジネスの各レイヤーについて説明し、定義する。

### 財務レイヤー：コストプールとサブプール

コストプールは、総勘定元帳の勘定科目に容易に一致させることができる低レベルのカテゴリーである。コストプールは、コスト配分を容易にするだけでなく、モデルを通じてコストの構成を明らかにできるため、レポーティングを強化する。例えば、アプリケーションの総所有コスト（TCO）は、ハードウェア、ソフトウェア、社内外の人件費、外部サービス、設備、通信費に分解できる。

次の図は、TBM分類法におけるコストプールとサブプールを定義したものである。

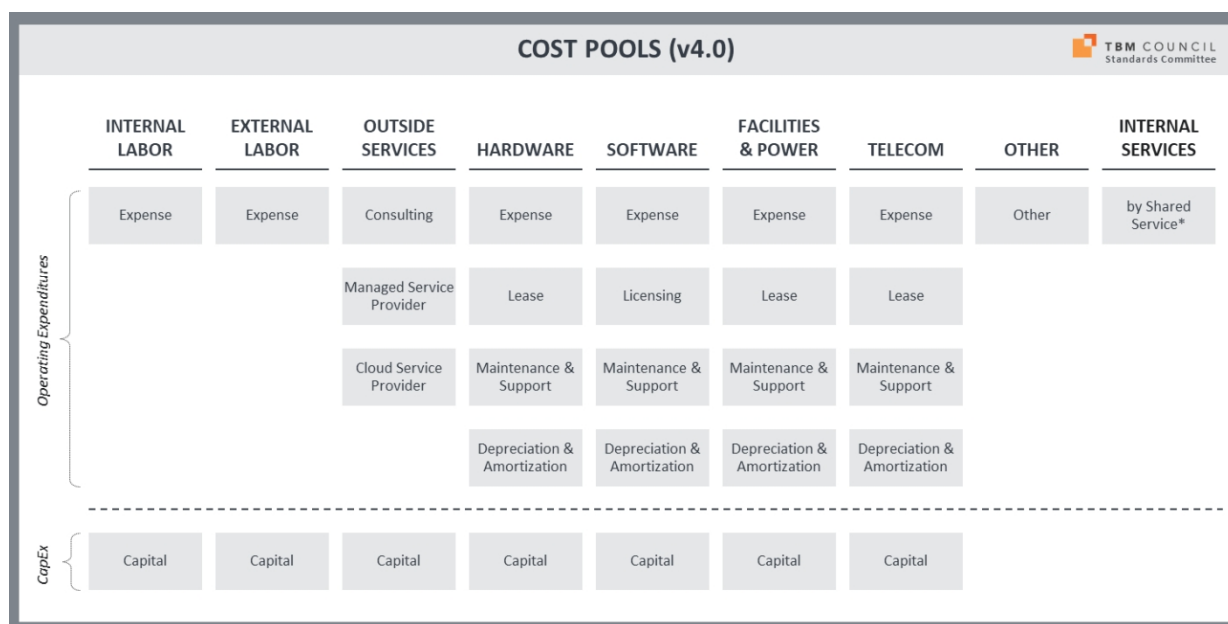


図3: TBM分類法 コストプールとサブプール

コストプールには、営業支出と資本支出の両方が含まれる。これら2つのタイプの支出は、分類学において明確に分けられており、ベストプラクティスとして、TBMモデルやその報告において混在させるべきではない。明確にするために、その定義を以下に示す：

- **営業費用（OpEx）**：給与、光熱費、保険料、税金、リース料など、事業の継続的運営にかかる費用。有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の耐用年数償却費を含む。資産化の要件を満たすアプリケーションのソフトウェア開発に関連する給与や福利厚生、新しい建物や建物の拡張のための建設労働力など、資産化される支出は含まれない。年次および四半期財務報告の一部である損益計算書に費用として表示されるため、企業の純利益（またはそれに相当するもの）を減少させる。
- **資本支出（CapEx）**：企業が建物、借地権、設備、ソフトウェア、データなどの資産を取得、建設、開発、強化、またはアップグレードするために使用する資金。また、企業が事業の範囲を維持または拡大するために行う。新たな資産の取得、既存資産の耐用年数の向上、および／または既存資産の大幅な強化につながるものでなければならない。減価償却有形場合）または償却（無形資産の場合）を通じて、資産の会計上の耐用年数にわたって営業費用として認識される。企業の純利益を減少させない。

企業によっては、TBMモデルによる現金ベースのレポーティングに重点を置く場合もある。これは、資本的現金支出は期ごとに大きく変動することが多く、長期にわたる企業の全体的な財務結果やポジションを表すには不十分であるという課題を表している。現金支出に基づくレポーティングは、「ばらつきがある」ように見え、期間ごとの比較が困難な場合がある。

コストプール	コスト・サブプール	説明
営業費用（OpEx）		
内部労働	ITサービスの提供またはサポートに必要なあらゆる人件費および活動（直接的な運用活動、サポート、管理および運営活動を含む）を含む。	
	経費	従業員の賃金、福利厚生、経費、稼働率。
外部労働者	ITサービスを提供またはサポートするために必要な外部要員の費用を含む（直接的な運用活動、サポート、管理、および運営活動を含む）。	
	経費	外部委託費、旅費、経費。
外部サービス	コンサルティングサービス、マネージドサービス、パブリッククラウドサービスなど、外部サービスプロバイダーから購入したITサービスを含む。外部サービスの具体例としては、マネージドネットワークサービス、エンドユーザーバックアップ用のクラウドストレージ、外部提供のEメールサービスなどがある。	
	コンサルティング	プロジェクトベースの外部コンサルティングサービス。
	マネージド・サービス・プロバイダー	外部のマネージド・サービス・プロバイダー。
	クラウド・サービス・プロバイダー	IaaS、PaaS、SaaSを含む外部のパブリッククラウドサービスプロバイダー。
ハードウェア	不動産、オフィススペース、高床施設を除く、すべての物理的技術資産を含む。資産の範囲はITリソースタワーによって異なるが、例えば、サーバー、PC、ストレージレイ、ネットワークアプライアンス、含まれる。例えば、ネットワーク・ファイアウォールなど、機器にソフトウェア（ファームウェア）が組み込まれている場合、別途料金を支払ってソフトウェアをアップグレードできる、その費用はハードウェアとして報告されるべきである。	
	経費	資産計上されない購入品（例：スペアパーツ、消耗品、資産計上基準以下の機器）のハードウェア費用。
	リース	ハードウェアのリース支出（サプライヤーまたは金融サービスのリース契約を通じて購入したハードウェアなど）。
	メンテナンス&サポート	ハードウェアの保守およびサポート費用。
	償却費	資産計上された購入品のハードウェア減価償却。



コストプール	コスト・サブプール	説明
ソフトウェア	オペレーティング・システム、ミドルウェア、データベース、システム管理・運営ツール、デスクトップ・アプリケーション、ユーティリティ、ビジネス・アプリケーションなど、すべてのソフトウェアのライセンス、メンテナンス、サポート費用を含む。ソフトウェア・コストには、エンタープライズ・ライセンスまたはインスタンスごとのライセンス、クライアント・アクセス・ライセンス、メンテナンス／更新コスト、カスタマイズ費用が含まれる。	
	経費	非資本化ソフトウェア購入のソフトウェア費用。
	ライセンス	SaaS以外のソフトウェアを使用するためのソフトウェアライセンス費用。SaaSサブスクリプションは、「外部サービス」>「クラウドサービスプロバイダ」に属する。
	メンテナンス&サポート	ソフトウェアのメンテナンスおよびサポート費用。
	償却費	資産化されたソフトウェア・ライセンス購入およびソフトウェア開発努力のソフトウェア減価償却費。
設備と電力	床面積のほか、電力、冷却、その他のユーティリティコスト、環境制御（消火）、配電、ラックインフラ、外部サービス、およびデータセンター環境の管理に関連する人件費が含まれる。	
	経費	データセンターのスペース、電力、セキュリティ、その他の運営費（コロケーション施設サービス、電気代、水道代など）。
	リース	データセンターのリース費用。
	メンテナンス&サポート	データセンターの保守・サポート費用
	償却費	データセンターの減価償却は、施設の建設費およびリースホルドの改善費（例：床上げ投資、電源／PDUインフラ、ラックの増築）。
テレコム	専用線、国内および国際音声（モバイルを含む）、MPLS、ISP、その他の料金を含むすべての電気通信料金を含む。テレコム・コストには、データ・センター、オフィス・ロケーション、インターネット、顧客、サプライヤー、パートナー間で音声および/またはデータのテレコミュニケーション・サービスを提供するための回線および関連する使用料が含まれる。これは通常、ワイド・エリア・ネットワーク（WAN）を介した伝送である。	
	経費	音声およびデータネットワーク接続費用（回線および使用料を含む）。



コストプール	コスト・サブプール	説明
	リース	電気通信リース支出。
	メンテナンス&サポート	テレコム・メンテナンスおよびサポート費用。
	償却費	資産化された電気通信費用の減価償却費／償却費。通常、これはハードウェアまたは設備の減価償却費／償却費に計上される。
その他	その他	雑費または標準外費用。
社内サービス	シェアードサービス	他の内部共有サービスグループから受領する雑費（例えば、人事部からの人事サービス料）。スペースおよび電力の不動産管理料は、施設・電力コストプールに含める。
資本支出（CapEx）		
内部労働	資本金	資本的労働力（社内従業員）
外部労働者	資本金	資本的労働力（外部請負業者）
ハードウェア	資本金	資本金基準額を超えるハードウェアの購入
ソフトウェア	資本金	資産計上基準額を超える永続的ソフトウェア・ライセンスの購入
外部サービス	資本金	資産化サービス支出
設備と電力	資本金	購入した土地および施設、資産計上した改良
テレコム	資本金	資産化された通信費

### ITレイヤー：タワーとサブタワーの定義

タワーとサブタワーは、ソリューションの基本的な構成要素である。例えば、コンピュータ（サーバー、Unix、メインフレームなど）、ネットワーク、アプリケーション（アプリケーション開発、アプリケーションサポート、運用など）、ITマネジメントなどがある。実際の現場では、これらに相当するものをドメインやファンクションと呼ぶこともある。多くのITショップは、タワーのための専門部署やコストセンターを持っており、それらはプロダクトオーナーやサービスオーナーのための共有リソースとして提供される。

タワーとサブタワーは、多くの場合、ソリューションチームの直接コストを反映し、消費コストと間接コストはモデルのソリューションレイヤーに含まれる。例えば、アプリケーションの直接コストは、アプリケーションタワーとサブタワーにある。これらは、アプリケーション開発者、サポート契約、アプリケーションに直接割り当てられたサポートスタッフ、購入したソフトウェアなどの支出である。

しかし、基盤となるサーバーやストレージのような消費コストは、それぞれのタワーにあり、モデルのソリューションレベルのアプリケーションコストにのみ含まれる。

以下は、TBM分類法の標準的なタワーとサブタワーである。

TOWERS (v4.0)										
DATA CENTER	COMPUTE	STORAGE	NETWORK	PLATFORM	OUTPUT	END USER	APPLICATION	DELIVERY	SECURITY & COMPLIANCE	IT MANAGEMENT
Enterprise Data Center	Servers (Windows/Linux)	Online Storage	LAN/WAN	Database	Central Print	Workspace	Application Development	IT Service Management	Security	IT Management & Strategic Planning
Other Facilities	Unix	Offline Storage	Voice	Middleware		Mobile Devices	Application Support & Operations	Operations Center	Compliance	Enterprise Architecture
	Midrange	Mainframe Online Storage	Transport	Mainframe Database		End User Software	Business Software	Program, Product & Project Management	Disaster Recovery	IT Finance
	Converged Infrastructure	Mainframe Offline Storage		Mainframe Middleware		Network Printers		Client Management		IT Vendor Management
	Mainframe			Container Orchestration		Conferencing & AV				
	High Performance Computing			Big Data		IT Help Desk				
						Deskside Support				

図4: TBM分類法タワーとサブタワー

タワー階層は、タワー（データセンター、コンピュート、ストレージ、アプリケーションなど）、サブタワー（サーバー、Unix、ミッドレンジなど）、サブタワー要素でグループ化される。サブタワー要素は組織に固有であり、パブリッククラウド、プライベートクラウド、物理的など、提供形態を表すためによく使用される。サブタワー要素は、多くのレポート作成において重要である。

Hierarchy		Example
1. Tower	} Standardized TBM Taxonomy	➤ Compute
2. Sub-Tower		➤ Servers
3. Sub-Tower Element	} Optional for more granular aggregation and allocation	➤ Windows ➤ Linux

図5: TBMタクソノミータワー階層

以下の表は、TBM分類学におけるITタワーとサブタワーの定義である。

タワー	サブタワー	説明
データセンター		コンピュータ機器を安全に収容するための専用施設。データセンターは、ラック/キャビネットとケーブル配線、クリーンで冗長化された電源、データ接続、温度・湿度・消火を含む環境制御、物理的セキュリティ、施設とそのインフラを管理・運営する人材を提供します。

タワー	サブタワー	説明
	エンタープライズ・データセンター	スペース、電力、環境制御、ラック、ケーブル配線、「スマートハンド」サポートなど、重要なIT機器を収容・保護する専用データセンター施設。
	その他の施設	本社、コールセンター、その他一般的なオフィスビルのIT機器を収納するコンピュータールームやMDF/IDFF/テルコクロゼット。
計算する	算術演算または論理演算を実行するようにプログラムされた、汎用および特殊用途の装置およびソフトウェア。要するに、アプリケーションやユーザーの要求を処理するための「頭脳」を提供する。コンピュータには、プラットフォームとオペレーティングシステムによって区別される、幅広い物理サーバーと仮想サーバーが含まれる。コンピュータタワーには、ハードウェア、ソフトウェア、人件費、および外部サービスの直接費用をすべて含める必要がある。	
	サーバー	MicrosoftのWindows ServerまたはLinuxオペレーティングシステムを実行する物理サーバーおよび仮想サーバー。オプションのレベル3カテゴリーには以下が含まれる：Windows、Linux、パブリック・クラウド・コンピュータ。
	ユニックス	ベンダー固有のプロプライエタリなUnixオペレーティング・システム（IBM AIX、Sun Solaris、HP UXなど）を実行するサーバー。ハードウェア、ソフトウェア、人件費、サポート・サービスが含まれる。
	ミッドレンジ	IBM AS/400プラットフォームで稼動するサーバー（ハードウェア、ソフトウェア、人件費、サポート含む）。
	コンバージド・インフラストラクチャー	コンピュータ、ストレージ、ネットワーク機能を1つのボックスにまとめた専用アプライアンス。
	メインフレーム	従来のメインフレームコンピュータと、レガシーOSを稼動させる業務。

タワー	サブタワー	説明
	ハイパフォーマンス・コンピューティング (HPC)	複雑な計算問題を解決するために、大規模な同時計算リソースと並列処理技術を使用すること。HPCテクノロジーは、科学研究や産業研究、製品エンジニアリングや開発、複雑なビジネスモデリング、シミュレーション、分析などの分野で応用されている。HPCのハードウェアとソフトウェア技術は、超並列計算と膨大なデータの処理に特化・最適化されている。
ストレージ	アプリケーション・プログラムやコード、データベース、ファイル、メディア、電子メール、その他さまざまな形式の情報のための集中データ・ストレージ。一般的なサーバー構成や、ラップトップ、デスクトップ、携帯電話、タブレットなどのエンドユーザーデバイスに含まれる内部ストレージを除く。	
	オンラインストレージ	分散コンピューティングインフラストラクチャのためのSAN、NAS、および同様の技術などのセントラルストレージ。オプションのレベル3カテゴリには以下が含まれる: オンプレミス、パブリック・クラウド・ストレージ。
	オフラインストレージ	分散ストレージのデータ損失、データ破損、ディザスタリカバリ、コンプライアンス要件をサポートするために、アーカイブ、バックアップ、リカバリに使用されるオフラインストレージリソース。
	メインフレーム・オンライン・ストレージ	メインフレームに接続されたストレージ・アレイおよび関連機器、ソフトウェア、運用にかかる労力。
	メインフレーム・オフライン・ストレージ	メインフレームストレージのデータ損失、データ破損、ディザスタリカバリ、コンプライアンス要件をサポートするためのアーカイブ、バックアップ、リカバリに使用されるあらゆるストレージリソース。
ネットワーク	システムと人々を接続し、人々が会話できるようにするためのデータおよび音声機器とその伝送方法。企業データセンター内のコア接続、オフィスビルや遠隔地への接続とアクセスを提供する。	

タワー	サブタワー	説明
	LAN/WAN	中核データセンター内の機器を接続し、オフィスの作業区域のエンドユーザーを組織の広範なネットワークに接続する物理的および無線ローカルエリアネットワーク。データセンター、オフィス、および第三者を直接接続する広域ネットワーク機器、労務、およびサポートサービス（電気通信および通信サービスを除く）。オプションのレベル3カテゴリーには以下が含まれる：LAN、WAN。
	声	PBX、VoIP、ボイスメール、ハンドセットなど、オンプレミス機器を通じて音声サービスを実現または配信する音声リソース（電気通信および通信サービスは除く）。
	輸送	<p>データネットワーク回線および関連アクセス設備・サービス。専用および仮想データネットワーク、インターネットアクセスを含む。また、利用料金請求に基づくモビリティおよびその他のデータ転送に関連する利用も含む。音声ネットワーク回線および関連アクセス設備・サービス。標準電話および800番号サービスに関連する利用も含む。</p> <p>音声とデータの伝送には、地上波と非地上波（衛星など）の技術がある。</p> <p>オプションのレベル3カテゴリーには以下が含まれる：データ、音声。</p>
プラットフォーム	分散型データベース、メインフレームデータベース、ミドルウェアシステムのほか、DBMSソフトウェアやツール、人件費、外部サービスを含む。	
	データベース	DBA、DBMS、ツール、運用サポートなど、（論理設計ではなく）物理データベースに焦点を当てた分散データベースサービス。
	ミドルウェア	分散プラットフォーム、アプリケーション、システム統合リソースにより、クロスアプリケーション開発、コミュニケーション、情報共有が可能になります。
	メインフレームデータベース	メインフレームデータベースサービスは、DBA、DBMS、ツール、運用サポートなど、（論理設計ではなく）物理データベースに重点を置いている。
	メインフレーム・ミドルウェア	メインフレームプラットフォーム、アプリケーション、システム統合リソースにより、クロスアプリケーション開発、コミュニケーション、情報共有が可能になります。

タワー	サブタワー	説明
	コンテナ・オーケストレーション	コンテナのライフサイクルを管理するためのツールとリソース。コンテナのプロビジョニングとデプロイ、可用性の維持、アプリケーションの負荷を管理するためのコンテナのスケールアップまたは削除、コンテナの再配置、コンテナ用のリソースの割り当て、コンテナとホストの健全性の監視などのタスクの制御と自動化が含まれます。
	ビッグデータ	高速で受信される大量の低密度非構造化データを統合、管理、分析するためのシステムとリソース。
出力	顧客の請求書、小切手、製品文書、その他の顧客サポート資料の大量印刷を提供する中央印刷サービス。印刷後の追加処理サポート（折りたたみ、梱包、郵送、結束など）も含まれます。	
	セントラルプリント	中央印刷サービス。多くの場合、顧客請求または顧客文書サポートプロセスをサポートするために提供される。
エンドユーザー	エンドユーザーには、エンドユーザーコンピューティングデバイスとエンドユーザーへのサポートが含まれる。この範囲には、企業向けのエンドユーザーコンピューティングデバイスを構築、管理、運用し、エンドユーザーに集中サポートを提供するためのコストが含まれる。	
	ワークスペース	クライアント・コンピュータの物理的デスクトップ、ポータブル・ノートパソコン、シン・クライアント・マシン、個人が業務を遂行するために使用する周辺機器（モニター、ポインター・デバイス、付属のパーソナル・プリンターを含む）。
	モバイル機器	クライアント・コンピュータ・タブレット、スマートフォン（iOS、Android、Windows Mobile）、および個人が業務に使用するアプリケーション。
	エンドユーザー・ソフトウェア	文書やその他のコンテンツの作成、共同作業、共有に使用されるクライアント関連のソフトウェア。例：電子メール、コミュニケーション、メッセージング、ワープロ、スプレッドシート、プレゼンテーション、デスクトップパブリッシング、グラフィックなど。オプションのレベル3カテゴリーには、生産性、コミュニケーション、コラボレーションが含まれます。

タワー	サブタワー	説明
	ネットワークプリンター	ユーザーのデスクトップまたはその近くにあるプリンター。例えば、ネットワークに接続されたパーソナルプリンター、インクジェットプリンター、レーザープリンター、部門用プリンター、コピー室用プリンターなど。ネットワーク接続されたプリンタのみを含める。エンドユーザーコンピュータに接続されているプリンタは含めない。
	会議 & AV	一般的に会議室やテレプレゼンス専用ルームで使用され、ワークフォースコミュニケーションを可能にするオーディオおよびビデオ会議機器。
	ITヘルプデスク	ユーザーのリクエストに対応し、質問に答え、問題を解決するTier 1ヘルプデスクリソースを集中管理。
	デスクサイド・サポート	移動、追加、変更、問題解決のためのオンサイト・サポートを提供するローカル・サポート・リソース。
申し込み	ソフトウェア・アプリケーションの開発、テスト、リリース、サポート、運用、ライセンス。	
	アプリケーション開発	アプリケーション開発プロジェクトに関連する分析、設計、開発、コード、テスト、リリース・パッケージング・サービスに関わるリソース。 オプションのレベル3カテゴリーには以下が含まれる: 開発、QA
	アプリケーション・サポート & オペレーション	既存のアプリケーションに関連する運用、サポート、修正、および小規模な機能強化。
	ビジネス・ソフトウェア	既製ソフトウェアの購入に関連するライセンス、メンテナンス、サポートを含むソフトウェア支出。
配送	ITサービスマネジメント (ITSM) 機能を含む、企業の監視、サポート、管理、ITオペレーション。	
	ITサービスマネジメント	ITサービスの一環として、インシデント、問題、および変更管理活動に関わるリソース  管理プロセス（ティア1ヘルプデスクを除く）。
	プログラム、製品、プロジェクト管理	IT関連プロジェクトや継続的な製品開発（アジャイルなど）の管理およびサポートに携わるリソース。



タワー	サブタワー	説明
	顧客管理	ビジネス・ニーズを理解し、IT製品、サービス、ITプロジェクトの状況を伝えるために、ビジネス・ラインと連携したリソースまたは「アカウント・マネージャー」。
	オペレーションセンター	NOC（ネットワーク・オペレーション・センター）やGOC（グローバル・オペレーション・センター）など、監視や介入を含むITオペレーション・センターのリソースの集中化。
セキュリティとコンプライアンス	企業のセキュリティ、コンプライアンス、災害復旧態勢を定義、確立、実施、測定するITセキュリティコンプライアンスおよび災害復旧機能。	
	セキュリティ	<p>ポリシーを設定し、プロセスと手段を確立し、コンプライアンスを測定し、セキュリティ侵害に対応し、脆弱性スキャン、ファイアウォール、侵入防御システム、セキュリティ情報・イベント管理（SIEM）を管理するなど、リアルタイムの運用セキュリティを提供するためのリソース。オプションのレベル3カテゴリーには以下が含まれる：サイバーセキュリティ</p> <p>注：セキュリティポリシーによって定義された実装アクション（例えば、パッチ適用によるセキュリティ侵害の緩和）は、セキュリティサブタワーには含まれず、アクションがされるそれぞれのタワー（例えば、コンピュート、ストレージ、ネットワーク）の一部となります。</p>
	コンプライアンス	<p>ポリシーの設定、統制の確立、および関連する法的要件やコンプライアンス要件への準拠を測定するためのリソース。オプションのレベル3カテゴリーには以下が含まれる：データプライバシー。</p> <p>注：コンプライアンスポリシーによって定義された実装アクション（例えば、多要素認証のようなコントロールの実装）は、コンプライアンスサブタワーには含まれず、アクションが行われるそれぞれのタワー（例：コンピュート、ストレージ、ネットワーク、アプリケーション、エンドユーザー）の一部となります。</p>

タワー	サブタワー	説明
	災害復旧	ディザスタリカバリ（DR）ポリシーの設定、プロセスと手段の確立、専用のフェイルオーバー設備、DRテストの実施のためのリソース。  注：DR指定の機器は、それぞれのサブタワーに直接含まれる（例えば、DR用の追加サーバはコンピュータタワーに含まれるなど）。さらに、DRポリシーによって定義された実装アクション（DRサーバーの構築など）は、ディザスタリカバリ・サブタワーには含まれず、アクションが行われるそれぞれのタワー（コンピュータ、ストレージ、ネットワークなど）の一部となる。
ITマネジメント	企業ITの全体的な管理、戦略、計画。	
	ITマネジメント & 戦略プランニング	経営・管理リソース。通常、CIO、シニアITリーダー、IT戦略・計画の一元化を含む管理サポートが含まれる。
	エンタープライズ・アーキテクチャ	ビジネス・テクノロジー・ソリューション間の標準化、統合、効率化を推進するために、ビジネス、情報、アプリケーション、および技術アーキテクチャを指定および管理するためのリソース。
	ITファイナンス	IT支出の計画、予算、支出管理、チャージバック、およびIT製品・サービスの原価計算に関わるリソース
	ITベンダー管理	サードパーティ・ベンダーおよび外部サービス・プロバイダーの選定、契約管理、監督、業績管理およびサービス提供全般に関わるリソース。

### ビジネスレイヤーソリューションの定義

ソリューションとは、IT部門が最終消費者（ビジネスリーダー、エンドユーザー、そして多くの場合、顧客やパートナーなどの外部関係者）に提供するものである。ソリューションは3つのクラスで提供される：

- **アプリケーション：**アプリケーションは、IT部門、事業部門、社外のビジネス顧客、社外のビジネスパートナーが、タスクを完了したり、プロセスを実行したり、結果をするために使用するソフトウェア・ツールである。アプリと呼ばれることもあり、ビジネスへのサービス提供に使用される主要な基盤技術であることが多い。
- **サービス：**サービスとは、労働力、ソフトウェアベースの自動化、および／またはサードパーティプロバイダ（クラウドサービスなど）の組み合わせを使用して、ビジネスまたは技術消費者に代わって実行される作業であり、プロセスを実行するか、またはその他の方法でビジネスまたは技術的な成果を促進する。サービス

サービス、リスク、コストの合意されたレベルとともに、明確に定義されるべきである。それらは、サービスカタログまたは同様の仕組みを用いて、適切な消費者に宣伝されるべきである。消費者が消費に課金される金額を理解できるように、内部的に価格を設定することもできる。サービスは、ビジネスパートナーや企業内部の消費者に価値を提供文脈で定義されることが多い。

- **製品：**製品はサービスである。製品という用語は、組織がアジャイル開発手法を採用した場合や、ソフトウェアやソフトウェアを活用したビジネス機能の開発、強化、提供方法を「プロジェクトから製品へ」転換した場合によく使われる。製品は、事業体の外部にいる顧客やパートナーの文脈で定義されることが多く、製品は、多くの場合、収益を直接的に促進し、顧客にサービスを提供し、事業体の使命を満たす。

ソリューションのクラスごとにポートフォリオを定義することもできる。アプリケーションポートフォリオは、ガートナーのTIME（許容、投資、移行、排除）モデルのようなガバナンススキームを使用して構成することができる。サービス・ポートフォリオには、サービス・パイプライン（開発中のもの）、サービス・カタログ（プロビジョニングおよび消費可能なもの）、引退したサービス・カタログ（もはや消費できないもの、または引退の過程にあるもの）が含まれる。製品ポートフォリオは、リーンポートフォリオ管理モデルに従って管理され、投資ホライズン（評価、新興、投資、抽出、引退など）に合わせて調整される。これらのポートフォリオモデルに共通するのは、それぞれが構成要素のライフサイクルを認識し、ライフサイクルの各段階でコストが発生することである。

どのクラスであっても、ソリューションの定義は、ビジネスリーダー、ユーザー、その他の利害関係者にビジネス価値を伝えるものでなければならない。さらに、組織はソリューションを説明する際に、これらの用語をすべて使用することが多い。例えば、インフラストラクチャーやプラットフォームサービス、あるいは財務やワークフォースシステムなどの企業アプリケーションなど、社内のコンシューマーに提供されるITサービスと、顧客が製品やサービスを閲覧したり注文したりするために使用するモバイルアプリなどの製品がある。

本文書では、アプリケーション、製品、サービスの呼び出すのではなく、ソリューションという用語を使用する。次の図は、サービスタイプ、サービスカテゴリ、TBM分類法で定義されたサービスを含むサービス階層を表しています。

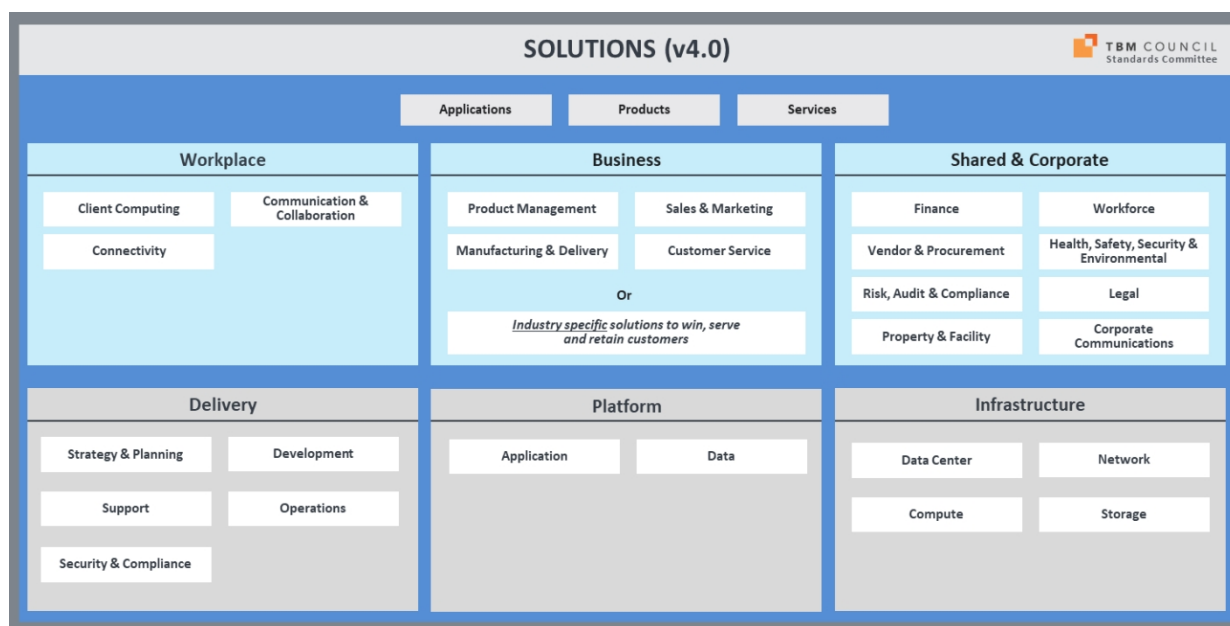


図6: TBMタクソノミービジネスレイヤー（ソリューションビュー）

ソリューション階層は、タイプ（ワークプレイス、ビジネス、プラットフォーム、インフラストラクチャーなど）、カテゴリー（クライアントコンピューティング、コミュニケーション＆コラボレーションなど）、名称によってグループ化されている。ソリューションオフリングは組織に固有であり、代表的な例としてTBM分類法に含まれている。オフリングには、多くの場合、異なるサービスレベルのパッケージや製品パッケージが含まれ、これにより、同様のサービスや製品が、異なるサービスレベルや価格帯を表す異なる構成で提供される。

### Hierarchy

1. Type
2. Category
3. Name



Standardized TBM Taxonomy

### Example

- Infrastructure
  - Compute
  - Virtual Compute & Containers
- 
- Xen, OpenStack, VMware (on-prem)
  - AWS/Azure/GCP offerings



Organization-specific modifications

図7: TBM分類法ソリューションの階層構造

標準的なTBM分類法で定義されている6つのソリューション・タイプには、**ワークプレイス、ビジネス、シェアード&コーポレート、デリバリー、プラットフォーム、インフラストラクチャー**が含まれる。多くのソリューションは、従来のデリバリーモデル（オンプレミスのデータセンターなど）や、さまざまなクラウドデリバリーモデル（パブリッククラウド、プライベートクラウド、ハイブリッドクラウドなど）を使って提供することができる。これらは、多くのタイプのサービスに適用できるため、以下の分類法のカテゴリーには特に反映されていない。さらに、標準的なクラウドサービスモデル（Infrastructure-as-a-Service、Platform-as-a-Service、Software-as-a-Service）は特に含まれていない。しかし、TBMモデルでは、レポートや意思決定に必要な場合には、サービス・オフリングの分類（ラベルやメタデータなど）としてこれらを組み込むべきである。

以下のセクションと表は、標準的なTBM分類法におけるソリューションを定義している。

## 配送

デリバリー・ソリューションとは、ワークプレイス・ソリューション、ビジネス・ソリューション、シェアード&コーポレート・ソリューションの構築、展開、サポート、運用を行うものである。開発サービスは、通常プロジェクトを通じて、ビジネス向けサービスを構築・変更する。また、サポートおよび運用サービスは、ユーザーを支援し、ビジネス向けサービスの可用性を確保します。

カテゴリー	名称	説明
戦略と企画	CIOおよびITリーダーシップチームが、企業のテクノロジー環境を効率的に計画・管理できるようにする。サポートされる活動には、プランニング、アーキテクチャ、コンサルティング、イノベーションとR&D、プロジェクトとアジャイル管理ベンダー管理などが含まれます。ITSM戦略サービスの多くは、このサービス・カテゴリーに含まれます。	
	エンタープライズ・アーキテクチャ	ビジネス戦略およびIT戦略を実行するために必要なビジネス、情報、プロセス、テクノロジーの変革を通じて、組織を導く。
	ビジネス・ソリューション・コンサルティング	主に既存のビジネス問題の分析と改善計画の策定を通じて、業績向上を支援する。これには、ビジネス・リレーションシップ・マネジメント、需要管理、ビジネス・プロセス分析、技術選択が含まれる。
	テクノロジー・ビジネス・マネジメント	テクノロジーポートフォリオによって実現されるビジネス成果を改善するためのディシプリンと価値の対話を可能にします。テクノロジー・リーダーとそのビジネス・パートナーが、ビジネスに沿った意思決定において協力できるようにします。 IT管理、IT財務および原価計算、IT請求、ビジネス価値、測定基準、ベンチマーキング、サービス・ポートフォリオ管理、サービス・カタログ管理、サービス・レベル管理、可用性管理を含む。
	イノベーションとアイデア	新技術の投資、開発、インキュベーションを行い、明確化されていない、または既存の市場ニーズを満たす新しい、またはより良いソリューションを生み出すこと。新技術ソリューションと新製品インキュベーションサービスを含む。
	ITベンダー管理	テクノロジー製品やサービスを提供、納入、サポートするテクノロジー・サプライヤーの管理。ベンダーの選定、交渉、契約、調達、メンテナンス、サブスクリプションの更新、パフォーマンス管理など、ベンダーのライフサイクル全般にわたるサービスを含む。

カテゴリー	名称	説明
	プログラム、製品、プロジェクト管理	<p>組織のパフォーマンスを向上させる目的で、ソフトウェア開発に焦点を当てたプロジェクト、プログラム、および製品を管理するプロセス。</p> <p>注：プロダクトマネジメントとは、より協調的で継続的な計画、優先順位付け、およびデリバリープロセス（例えば、アジャイル手法）を指し、反復的なアプローチで新機能の小さなパッケージの頻繁なリリースを提供する。プロジェクト管理は、新しい機能を提供したり、既存の機能を強化したり、アプリケーションやサービスを廃止したりするためのプロジェクトの個別の計画、予算、実行の伝統的な手法です。プロジェクトマネジメントは、特定の目標を達成し、特定の成功基準を満たすために、チームの作業を開始し、計画し、実行し、管理し、終了します。</p>
開発	新しいソリューションの計画、設計、構築、テスト、リリース。	
	デザイン＆開発	ソフトウェア製品の作成と保守に関わる計画、設計、プログラミング、文書化、テスト、修正を行う。
	システム・インテグレーション	異なるコンピューティング・システムやソフトウェア・アプリケーションを物理的または機能的に結び付け、全体として協調して動作させること。これは、企業のデータセンター内に存在するシステムと、プロバイダーの施設内に存在するSaaSサービスとの間で達成することができる。
	近代化と移行	レガシーとなりがちな古いシステムやプラットフォームから、より新しくモダンなシステムやプラットフォームへ移行するための計画、設計、アーキテクチャを提供する。ユーザーアカウント、ユーザーデータ、設定データ、その他新しい環境での運用に必要なデータセットの移行を含む。
	テスト	エラーやその他の不具合を発見する目的で、プログラムやアプリケーションを実行すること。調査は、製品またはサービスの品質に関する情報を利害関係者に提供し、ビジネスがソフトウェア実装のリスクを理解できるようにするために実施される。テストには、機能、システム、統合、パフォーマンス、ユーザビリティなど、複数の形態がある。
オペレーション	向けテクノロジーシステムの監視、サポート、管理、運営を行う。通常は舞台裏で提供され、直接ユーザーと接することはない。	

カテゴリー	名称	説明
	配備と管理	新しいソフトウェアや最新バージョンのソフトウェアをホストサーバーやクライアントコンピューティングデバイスに配備するためのリリース管理とソフトウェア配布を含む。また、オペレーティング・システム（OS）の継続的なサポートとパッチ管理も含まれます。
	ITサービスマネジメント	IT部門が顧客に提供するITサービスを計画、提供、運用管理するために必要な、インシデント、問題、変更の管理機能を提供する。  サーバー設定やネットワーク・ルーター・テーブルなどの資産設定を評価、記録、管理するためのソフトウェア・ツールおよびサービス。
	キャパシティ・マネジメント	ITリソースが、現在および将来のビジネス要件をコスト効率よく満たすために適切なサイズであることを確認する。ビジネスまたは消費者からの予想される需要を、既存のキャパシティの可用性とパフォーマンスとともに考慮し、将来の要件を予測する。キャパシティ・マネジメントは、データセンター、コンピュータ、ストレージ、ネットワーク、その他のITリソースにわたって行われる。
	イベント管理	リソースとアプリケーションを監視します。APIコールを記録し、ログと洞察を提供します。ログデータの統合、レポート作成、分析を行い、IT管理者やセキュリティ担当者が資産の利用状況、ユーザーのログイン、情報へのアクセス状況を把握できるようにします。
	スケジューリング	ITソリューションの運用に必要なタスクを実行し、1日、1週間、1ヶ月、1年の特定の時間にバッチタスクやオンラインタスクを実行するソフトウェアツールを使用する。
サポート	トレーニング、アプリケーション・サポート、サービスデスク、セントラル・プリント・サービスでエンドユーザー・コミュニティをサポートする。	
	アプリケーションサポート	アプリケーションまたはサービスをさせ続けるために必要な継続的な運用活動を提供し、より複雑または困難なユーザーからの質問やリクエストに対して、ティア2およびティア3のテクニカルサポートを提供する。また、小規模なアプリケーションの拡張（マイナーチェンジ、新しいレポートなど）の開発および検証を行うこともあります。



カテゴリー	名称	説明
	セントラルプリント	請求書、製品資料、その他複雑な文書を大量に配布するために、大量かつ高度な印刷を行う。また、配布を迅速にするために、折りたたみ、封筒詰め、郵送、結束を行うこともあります。
	ITトレーニング	一般的な生産性ソフトウェアやツールだけでなく、組織のビジネスアプリケーションサービスへのアクセス方法や効果的な使用方法について、組織のユーザーに教育サービスを提供する。
	サービスデスク	ユーザーとIT組織のサポート・ニーズを満たすために、単一の窓口を提供する。通常、コンピュータ、電子機器、ソフトウェアなどの製品に関する問題のトラブルシューティングやガイダンスを提供する。ヘルプデスク・サポートは、電話、ウェブサイト、インスタント・メッセージング、電子メールなど、様々なチャネルを通じて提供される。その他のサービス提供には、ITナレッジ・マネジメント、リクエスト・フルフィルメント、デスクサイド・サービス、「テクニカル・バー」サービスが含まれる。
セキュリティとコンプライアンス	企業の技術システムとデータの完全性、保護、適切な使用を確保する。	
	アイデンティティとアクセス管理	<p>ポリシー、ビジネスプロセスを設定し、コントロールを確立し、個人が適切な必要なシステムにアクセスできるようにすることで、デジタル・アイデンティティの管理を促進する技術を提供する。具体的な分野としては、認証、アイデンティティ管理、アイデンティティ・ガバナンスおよび管理などがある。</p> <p>具体的な以下の通り：認証/認可、アイデンティティ管理、アイデンティティ・ガバナンスと管理、特権アクセス管理、および証明書管理。</p>
	セキュリティ意識	<p>組織の物理的およびデジタル資産の全個人の理解を促進するため、ポリシー、手順を設定し、組織のメンバーに企業知識トレーニングを提供する。</p> <p>具体的な分野は以下の通り：セキュリティ・トレーニング、セキュリティ・アドバイザリー、セキュリティ・ポリシーと手順。</p>

カテゴリー	名称	説明
	サイバーセキュリティとインシデントレスポンス	<p>既存の脅威や新たな脅威を認識し、関連するリスクを判断するための方針、手順、技術を提供し、組織が各インシデントに対して適切な防御と対応を取れるようにする。</p> <p>具体的な以下の通り：サイバー・セキュリティ・モニタリングとセキュリティ・インシデント対応。</p>
	脅威と脆弱性の管理	<p>組織のアプリケーションとインフラストラクチャの脆弱性が、権限のない個人や関係者に悪用されないよう、プロアクティブに特定、分類、修正または緩和されることを保証する。</p> <p>具体的な分野は以下の通り：アプリケーション脆弱性管理、インフラ脆弱性管理、ネットワーク／エンドポイントセキュリティ。</p>
	データプライバシーとセキュリティ	<p>データとIDが適切に分類され、データ損失を防ぐための適切な管理が行われ、データが適切に保護されていることを確認することにより、企業およびユーザーのデータが権限のない個人または団体によって使用またはアクセスされないようにする。</p> <p>具体的な以下の通り：データ分類と識別、データ損失防止、データ暗号化、データ・アクセス、データベース・セキュリティ。</p>
	ガバナンス、リスク&コンプライアンス	ITに関する全体的なガバナンス、企業リスク管理、規制遵守を管理するための戦略、方針、プロセスを提供する。リスクを管理し、コンプライアンス要件を満たしながら、ITとビジネス目標および目的を整合させるための構造的アプローチを提供する。
	事業継続と災害復旧	企業の継続的な運営を保証する。ビジネス影響評価、ビジネス回復力計画、災害復旧能力、および関連する演習、テスト、訓練、インシデント発生時に人、プロセス、技術の回復をサポートするための意識向上が含まれる。

## インフラ

インフラストラクチャ・ソリューションには、あらゆるテクノロジー・オートメーションを提供するために必要な設備、コンピュータ、ストレージ、ネットワーク・サービスなどのコア・インフラストラクチャが含まれる。通常、これらは直接消費することはない。しかし、IT運用モデルによっては、共有の「インフラ・運用グループ」が、これらのインフラ・サービスを顧客に直接提供することもある。

カテゴリー	名称	説明
計算する	ビジネス・アプリケーション、ソフトウェア・ツール、システム・サービスを実行する物理および仮想コンピューティング・システムを提供する。専用またはオンデマンドで、オンプレミスまたは外部のマネージドサービスやパブリッククラウドを通じて提供される。	
	コンピュート・オン・デマンド	スケジュールに従って、または事前に定義されたイベントによって自動的に実行される一時的なコンピュートサービス。
	メインフレーム	メインフレームインフラストラクチャがサポートするトランザクションおよびバッチ指向の計算サービス。
	フィジカル・コンピュータ	物理サーバーで構成されるさまざまなコンピュート構成。これらは通常、Windows、Linux、またはUnixオペレーティングシステムをベースとし、メモリ、CPU、ストレージの事前定義された構成を持つ分散型コンピュートサービスです。標準的な運用サポートには、セキュリティ強化、バックアップ、アップデート、パッチ適用、集中監視などが含まれる。
	仮想コンピュータとコンテナ	物理的なコンピュートリソースの仮想化を通じて提供される、さまざまなコンピュート構成。ユーザーの操作やアプリケーション自体のパフォーマンスに応じて、オンデマンドでプロビジョニングやデプロビジョニングが可能。これらの仮想インスタンスは通常、WindowsまたはLinuxオペレーティングシステムを実行し、仮想的に割り当てられたメモリ、CPU、ストレージの事前定義された構成を持っています。標準的な運用サポートには、セキュリティ強化、バックアップ、アップデート、パッチ適用、集中監視が含まれる。
データセンター	コンピュータ、ストレージ、ネットワーク、その他の技術機器を収容するための、安全で管理された環境を提供する。	
	エンタープライズ・データセンター	物理的なセキュリティ、クリーンで冗長化された電力、データ接続、温度・湿度・消火などの環境制御を提供する、コンピュータ安全に収容するための専用施設。企業が所有・運営するデータセンターのほか、他のサービス・プロバイダーが運営するコロケーションやポイント・オブ・プレゼンス・サービスも含まれる。 その他のサービスには、出荷と受け取り、組み立て、ラックとスタック、メンテナンスが含まれる。
	その他のデータセンター	その他のデータセンター・サービスは、施設に併設された安全な専用ルームやテレコム・クローゼットを通じて提供されることがある。

カテゴリー	名称	説明
ネットワーク	音声およびデータネットワークと、ロードバランシング、ドメインサービス、仮想プライベートネットワーク、インターネットなどのサポートサービスを提供し、企業内外のコミュニケーションを可能にする。	
	ドメインサービス	ホスト間の通信を可能にするために、ドメイン名（例：www.acme.com）を関連するIPアドレスに変換するルックアップ機能。
	インターネット	データ・センター、オフィス・ビル、遠隔地、パートナー、サービス・プロバイダーなど、組織全体の通信を可能にする公衆インターネットを利用した電気通信。アクセスを制限し、セキュリティを提供するために仮想プライベート・ネットワークを構築することもある。
	ロードバランシング	アプリケーションに高可用性とネットワークパフォーマンスを提供するために、ロードバランシングとトラフィック管理を通じて、受信するアプリケーション/ワークロードのリクエストを最適化します。
	仮想プライベート・ネットワーク	ユーザーを認証し、企業システムや情報へのアクセスを可能にする安全な方法を提供する。また、物理マシンや仮想マシン、アプリケーションにまたがるデータセンター内の環境を分離し、保護することもできる。
	データ・ネットワーク	データセンター、オフィスビル、遠隔地、パートナーやサービスプロバイダー（パブリッククラウドサービスプロバイダーを含む）など、組織全体にわたって、公衆インターネットを経由せずに直接データ通信を可能にするネットワーク接続サービスの選択。一般的には、より高いレベルのパフォーマンス、セキュリティ、コントロールを提供する。利用可能なサービスには、地上波、非地上波（衛星など）技術、フィールドネットワーク、特殊用途ネットワークなどがある。
	音声ネットワーク	旧来の電話サービス」の、800サービス、自動コール分配、ボイスメールなどの高度な機能を提供する音声回線。地上波および非地上波（衛星など）の音声通信技術を含む場合がある。
ストレージ	リアルタイムの高性能データ・ストレージから長期アーカイブ・ストレージまで、情報、データ、ファイル、その他のオブジェクト・タイプを永続化します。また、ビジネスインパクト評価に基づき、アプリケーションのビジネスニーズを満たすリカバリポイント目標も提供します。	

カテゴリー	名称	説明
	ファイル&オブジェクトストレージ	安全で耐久性のあるオブジェクトストレージ。オブジェクトは、文書やメディアファイルのような非構造化データでも、テーブルのような構造化データでも構わない。
	バックアップ&アーカイブ	データのバックアップやアーカイブのための、安全で耐久性があり、低コストのストレージサービス。ディスクバックアップ、テープバックアップ、オプティカルバックアップ、オフサイトストレージサービスなどがある。
	ネットワーク・ストレージ	データやアプリケーションをホスティングする目的でサーバーに、またはサーバーをホスティングする目的で仮想化環境に、ストレージのプールを提供します。ネットワーク・ストレージ・サービスは、冗長性、管理の容易さ、迅速な移動・追加・変更・削除機能、規模の経済実現します。ストレージ・アレイ・ネットワーク（SAN）、ネットワーク・アタッチド・ストレージ（NAS）、ソリッド・ステート・ドライブ（SSD）ストレージがその一例です。
	分散ストレージ（CDN）	帯域幅の広いコンテンツをエッジネットワークに保存して提供することで、待ち時間を短縮し、アプリケーションのパフォーマンスを向上させます。

## プラットフォーム

プラットフォーム・ソリューションには、ビジネス向けのアプリケーションやサービスを実現するアプリケーション・インフラ（データベース、ミドルウェアなど）が含まれる。通常、これらはユーザーが直接消費するものではない。エンドユーザー、ビジネスアプリケーション、共有アプリケーションサービスが必要とするコンポーネントである（後者の2つのタイプについては後述）。しかし、ITオペレーティング・モデルによっては、共有された「インフラストラクチャーとオペレーショングループ」は、これらのプラットフォームサービスを顧客に直接提供することができます。

カテゴリー	名称	説明
申し込み	特定のビジネス・アプリケーションを実現するために、コンピュート・プラットフォーム上で実行されるさまざまなアプリケーション・ベースのサービスを提供する。	
	アプリケーション・ホスティング	アプリケーションサーバー、データベースサーバー、ウェブサーバー、アプリケーションサーバーの運営。スタンドアロンのウェブサービスとアプリサービスプラットフォームサービスを含む。
	開発プラットフォーム	マイクロサービスを含むアプリケーションやアプリケーション・サービスを効率的に開発、統合、テストするための環境とツールセットを提供する。ソースコード編集、バージョン管理、ビルド自動化、デバッグのための統合開発環境（IDE）を含む場合がある。以下のようなローコード開発プラットフォームを含むこともある。

カテゴリー	名称	説明
		実用的なソフトウェアやソフトウェア機能を開発する技術開発者。
	プラットフォーム	<p>多くのSaaSアプリケーションによって提供される「サービスとしてのプラットフォーム」と同様に、大規模なERPシステムによって提供されるコア基盤機能を含む。</p> <p>ERP 基盤プラットフォーム（SAP R/3 Basis や SAP S/4 HANA など）は、ERP アプリケーションの機能を実現する技術的な基盤である。通常、システムやデータベースをまたがるERPアプリケーションの相互運用性と移植性をサポートするプログラムやツールで構成される。</p> <p>多くのSaaSアプリケーションは、主要なアプリケーションスイートを補完する追加アプリケーションやモジュールの統合や開発を可能にするプラットフォーム機能も提供している。</p> <p>例としては、セールスフォースのForce.com製品、ServiceNowのNow PlatformとAppian。</p>
	メッセージ・バスと統合	異なるシステムが、共有されたインターフェースのセットを介して通信できるようにします。複数のアプリケーションへのイベント・ストリーミング、企業およびモバイル・メッセージング、タスク完了アラート、しきい値アラート用のサブスクライブおよびパブリッシュ通知サービスが含まれます。
	コンテンツ管理	共同作業環境における複数のユーザーをサポートすることで、デジタルコンテンツの作成と変更をサポートします。 記録管理とデジタル資産含む。
	検索	ウェブアプリケーションとモバイルアプリケーションのキーワード検索機能を提供します。
	ストリーミング	オーディオやビデオを含むライブおよびオンデマンドのメディアストリームを配信。
	意思決定インテリジェンスとオートメーション	ソフトウェアやデバイスが大規模なデータセットを活用することで、明示的にプログラムされることなく、より正確に結果を予測できるようになる。自然言語処理、顔認識、物体認識、インテリジェント・パーソナル・アシスタント、ロボティック・プロセス・オートメーションは、人間の思考プロセスを補強するためにこれらの技術を利用した製品である。
データ		トランザクション活動をデータベースに取り込んで検索し、集中型データウェアハウスにデータを保存し、データを探索するための分析・視覚化ツールを提供し、パフォーマンスと応答時間を改善するために情報をエッジに配信するキャッシング技術を提供する、さまざまなデータ関連サービスを提供する。

カテゴリー	名称	説明
	データベース	アプリケーションがトランザクションデータにアクセスするためのリレーショナルデータベースサービス。  一貫性があり、低レイテンシーでスケールアウト可能なドキュメント/キーバリュー・ストア・モデルを必要とするアプリケーション向けのNo-SQLデータベース・サービスです。
	分散キャッシュ	Webアプリケーションのパフォーマンス向上を支援するインメモリーキャッシュサービス。
	データ管理	抽出、変換、ロード（ETL）プロセス、データ品質管理、マスターデータ管理など、データの移動と変換を自動化する一連のデータ分析サービス。
	データウェアハウス	1つまたは複数の異なるソースからの統合データの中央リポジトリまたはリポジトリの提供します。現在および過去のデータを保存し、企業全体のナレッジワーカー向けに分析レポートを作成するために使用されます。
	データ分析とビジュアライゼーション	地理空間分析を含む、グラフ、チャート、その他の視覚的表現を通じて、情報を分析し、ユーザーに明確かつ効率的に伝えるためのソフトウェアサービスとBIツールを提供。また、低遅延、高可用性、スケーラブルな複雑なイベント処理をクラウド上のストリーミングデータ上で提供することで、データのリアルタイムストリーミング分析も行う。

## 職場

ワークプレイス・ソリューションには、従業員がビジネス・アプリケーションにアクセスしたり、他の従業員、パートナー、および他の企業とのコミュニケーションを可能にするクライアント・コンピューティング・デバイス、ソフトウェア、および接続性が含まれます  
また、生産性ソフトウェアを使ってコンテンツを作成することもできる。これらは常に「ユーザー向け」のソリューションである。

カテゴリー	名称	説明
クライアント・コンピューティング	ユーザーが企業の技術システムやサードパーティのシステムとやり取りできるように、物理的および仮想的なデバイス、関連するソフトウェア、接続性を提供する。	



カテゴリー	名称	説明
	デバイスの持ち込み	ユーザーが個人所有のコンピューティングデバイス（ラップトップ、タブレット、スマートフォン）を持ち込み、組織のセキュリティやその他の基準に従って組織の企業ネットワークに接続できるようにする。標準的なサポートには、ビジネス・アプリケーション、情報、その他のテクノロジー・リソースにアクセスするための接続性のほか、その他のセキュリティ、バックアップ、アップデート、パッチ適用、リモート・アクセス、集中サービス・デスクなどが含まれる。
	コンピューター	ITが提供するコンピューター、ワークステーション、ラップトップ、タブレットの構成からお選びいただけます。メモリーやストレージを追加することも可能です。標準的な企業イメージが各デバイスにロードされます。依頼者は、生産性サービスを通じてオプションのソフトウェアを注文することができる。ネットワークおよびリモート・ネットワーク・アクセスを含む。セキュリティ、バックアップ、アンチウイルス、アップデートとパッチ、リモートアクセス、集中サービスデスクを含む標準サポートパッケージ。
	モバイル	ITが提供するスマートフォンの構成セレクション。ネットワーク・アクセスを含むセキュリティ、暗号化、バックアップ、アップデートとパッチ、リモートアクセス、集中サービスデスクを含む標準サポートパッケージ。
	仮想クライアント	デスクトップやアプリケーションソフトウェアの仮想化により、PCやタブレットの機能を、固定またはモバイルのワークスペース環境を問わず、それらの機能にアクセスするための物理的なデバイスから分離することができる。仮想ワークスペースは、ソフトウェア・アプリケーションの異なる設定済みパッケージを持つことができ、複数のデバイスからのアクセスを可能にします。高度なデスクトップ管理は、より高いレベルの柔軟性、セキュリティ、バックアップ、ディザスタリカバリ機能を提供します。
コミュニケーションとコラボレーション	エンドユーザーが電子メールやチャットを介して他のユーザーとコミュニケーションしたり、共有ワークスペースを介してコラボレーションしたり、ドキュメント、プレゼンテーション、ビデオ、その他のフォームなどのコンテンツを作成したり印刷したりできるようにします。	
	コラボレーション	場所やタイムゾーンを越えて、共通の目標を達成するための共同作業を可能にするコラボレーション・ソフトウェアのセレクション。分散したユーザー間でドキュメントや成果物を共有することができます。

カテゴリー	名称	説明
	コミュニケーション	ユーザーが他のユーザー、パートナー、または顧客とコミュニケーションできるようにします。このコミュニケーションは、電子メール、カレンダー、メッセージング、ソーシャルコミュニティ、音声会議、ビデオ会議、音声通話を介して行われる。より堅牢なユニファイド・メッセージング・サービスは、ファイル転送、ファイル同期・共有、埋め込み画像、クリック可能なハイパーリンク、VoIP（Voice over IP）、ビデオチャットなどを提供します。
	プリント	情報の可能にするさまざま周辺機器。印刷、コピー、ファクスなど、これらのサービスの1つ、またはすべてを提供する専門機器もある。印刷出力は、デジタル文書、プレゼンテーション、スプレッドシートなどの「ハードコピー」を作成する。スキャンは、ハードコピー文書をコンピュータが使用できるようにデジタル形式に入力する。
	生産性	文書、プレゼンテーション、表計算、モデリングツール、プロジェクト管理、データベース、デスクトップパブリッシング、ウェブデザイン、グラフィックおよび画像編集、オーディオ/ビデオ編集、CD/DVDレコーディングなど、さまざまな形式で情報の作成と配布を可能にするエンドユーザーアプリケーションソフトウェア。
コネクティビティ	ユーザーに企業のテクノロジーシステムへのアクセスを提供する。これには、社内での有線および無線アクセスと、社外からのリモートアクセスが含まれる。	
	ネットワーク・アクセス	ユーザーがクライアント・コンピューティング・デバイスからプライベートまたはパブリック・ネットワークにアクセスできるようにする接続サービスのセット。接続後は、ネットワークの一部としてビジネスアプリケーションやアクセスしたり、ネットワーク上の他のユーザーと通信や共同作業を行ったりすることができる。クライアント・コンピューティング・サービスとセットになっていることが多い。
	リモートアクセス	企業施設から離れた場所にいるユーザーが、クライアント・コンピューティング・デバイスから組織内部のプライベート・ネットワークにアクセスできるようにする接続サービスのセット。接続すると、ユーザーは組織のビジネスアプリケーションや情報にアクセスできる。クライアント・コンピューティング・サービスとセットになっていることが多い。

## ビジネス

**ビジネス・ソリューション**は、ビジネスが顧客を獲得し、サービスを提供し、維持することを可能にする製品および外部顧客に焦点を当てたビジネス能力を実現するためにITによって提供される。The TBM taxonomy includes a generic set of capabilities that most enterprises provide including Product Management, Sales &

マーケティング、製造・配送、カスタマーサービス。業種特有のビジネスアプリケーションサービスを提供する追加技術拡張が開発されることもある。承認された業界固有のエクステンションは、別の補遺として公表される。

カテゴリー	名称	説明
製品管理	製品開発	イノベーション管理、コンピュータ支援設計、シミュレーション可視化、企業フィードバック、ソーシャル製品フィードバックとクラウドソーシングを含む製品設計と開発を可能にする。
	商品企画	要件管理、製品データ管理、変更・構成管理、製造工程管理、品質管理、製品分析、リスク・コンプライアンス管理などの製品ライフサイクル管理が可能。
セールス&マーケティング	顧客分析	顧客分析、商品分析、顧客の声を反映。
	カスタマー・セールス	B2Cコマース・プラットフォーム、B2Bコマース・プラットフォーム、製品構成、POSプラットフォーム、決済を可能にする。
	マーケティング&広告	マーケティングオートメーション、オンラインマーケティング、モバイルマーケティング、アドテクノロジーを実現。
	セールスフォース・チャンネル管理	セールスフォースオートメーション、セールスイネーブルメントとトレーニング、パートナーリレーションシップマネジメント、プライシングマネジメントが可能。
製造と配送	在庫と倉庫管理	在庫管理、サプライチェーンスケジューリング、倉庫管理、返品管理が可能。
	製造業	プロトタイピング、生産スケジューリング、有形製品の製造、設備メンテナンス、デジタル製品のソフトウェア開発、品質テストが可能。
	商品のお届け	需給マッチング、車両／輸送管理、追跡システム、GIS／経路最適化など、物理的な製品のロジスティクスと配送を可能にする。
	サービス・デリバリー	リソーススケジューリング、エンゲージメント管理、プロフェッショナルサービス、教育、サービス品質など、目に見えないサービスの提供を可能にする。

カテゴリー	名称	説明
	資源計画	需要予測、需要計画、パートナーソーシングを可能にする。
カスタマーサービス	オーダー管理	注文管理、契約管理、価格最適化、請求、支払処理が可能。
	カスタマーケア	マルチチャネルのカスタマー・コミュニケーション（ACD、CTI、IVR、音声認識、プレディクティブ・ダイヤリング、Eメール・レスポンス、変更、共同閲覧）、ナレッジ・マネジメント、カスタマー・サービス・ワークフォースの自動化、フィールド・サービスを可能にします。

### シェアード&コーポレート

シェアード&コーポレート・ソリューションは、組織の内部業務を自動化し、サポートする内部重視のコーポレート・サービスを実現するためにITが提供するものである。これらはしばしばビジネス・サポートや共有サービスと呼ばれ、企業や組織の中核的な運営能力（財務、人事、法務など）を可能にします。

カテゴリー	名称	説明
ファイナンス	企業の財務管理を可能にする。	
	企画・管理会計	事業戦略に関連する財務目標、インセンティブ、進捗状況、影響に関する継続的な決定と理解において、リーダーシップに情報を提供し、指導するために、計画、予算編成、予測、臨時分析、報告など、確立された将来および現在の事業目標をサポートするための戦略的な資金配分を可能にする。具体的なサービス内容としては、計画・予算・予測、原価計算・管理、コスト管理、財務パフォーマンスなどがあります。
	収益会計	収益目標と実績の比較を可能にする。企業の最終的な定期財務諸表に反映されるすべての取引および項目（債権、債務、企業間取引）の監督責任。（この業務に、顧客からの支払の実際のライフサイクル処理が含まれるかどうかの判断は、企業の種類、業種、規模に基づいて行われる（「売掛金」を参照）。具体的なサービス内容としては、顧客信用、請求書発行、売掛金、回収などがある。

カテゴリー	名称	説明
	売掛金	請求書発行、支払受領、処理、エラー処理、（サプライヤーとしての）PO設定、照合、報告、回収など、顧客からの支払いを確実にする請求書発行と受領処理のライフサイクル全体を可能にします。
	一般会計とレポーティング	一般に認められた会計原則に従い、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等）を作成することができる。また、コスト、資産、設備の分類、決定、分析、解釈、統合、財務情報の伝達を行い、より良い経営と管理のための最新の経営判断をサポートし、（管理会計と連携して）規制/法令を遵守する責任も含まれる。特定の文脈では、企業、学術機関、または政府機関に提供される返済義務のない資金の資金調達と報告に関連する助成金活動を含むことができる。具体的なサービス内容としては、一般会計、固定資産会計、助成金管理、法規制・コンプライアンス報告を含む財務報告などがある。
	プロジェクト会計	複数多額の資本支出を必要とすることが多い、大規模な投資プロジェクトのアカウント管理を可能にします。プロジェクト期間中の主要なマイルストーン、製品、活動支出に対する投資を管理し、プロジェクト、ポートフォリオ、プログラムのリーダーを支援し、目標に対する進捗状況や効率を把握するための洞察を提供します。具体的なサービスとしては、資本計画、資本プロジェクトの会計・分析などがあります。
	給与計算と時間報告	報告された時間の処理、および賃金、給与、福利厚生の継続的な処理と支払い（品質保証とエラー処理を含む）を可能にする（ただし福利厚生管理を除く）。また、時間管理、スタッフ時間の取得、集計、測定、検証、送信も含まれる。具体的なサービス内容としては、タイムレポーティング、給与計算、給与税などがある。
	未払金・経費精算	サプライヤー、金融業者、および従業員に関連するものを含むその他の営業費用に対する支払処理を可能にする。事業体全体の買掛金および従業員経費の支払い処理に関する方針および手順の策定をサポートする。このプロセスには、請求書や経費精算依頼書の受領とレビュー、支払処理、小切手、電信送金、その他の支払い方法によるPOと支払書の発行が含まれることが多い。

カテゴリー	名称	説明
		譲渡。具体的なサービスには、買掛金、経費精算、法人クレジットカードなどがある。
	財務省	全社的または地域的に継続的な事業運営をサポートすることに重点を置いた投資活動（ヘッジ、債券の購入／売却、オーバーナイトおよび短期の機関投資、資金移動など）を通じて、日々の流動性、余剰資金、財務リスクの管理と最適化を可能にする。また、有効性を確保するために必要なガバナンス、管理、評価、リスク管理活動も含まれる。具体的なサービス内容は以下の通り：財務方針および手続き、現金管理、社内銀行口座、負債および投資、ヘッジ取引。
	税金	ワールドワイドな税務管理、最適化、納税、関連証拠書類作成に特化した組織の財務会計管理を可能にする。これには、税務ポジションと影響の計画、見積もり、分析、関連する移転価格戦略、税務申告書の作成、タイムリーな支払い、必要な承認が含まれます。また、規制要件や社内方針をサポートするための記録保存の編成も含まれます。 具体的なサービス内容としては、税務戦略、税務計画・分析、移転価格、税務処理などがある。
労働力	企業または組織の従業員および請負業者の管理を可能にする。広義には、従業員の選抜、採用、育成、報酬、保持、相談、退職などの活動を含む。労働力分析を含む従業員情報の管理も含まれる。	
	採用	要件収集、広告、発注書作成、代理店紹介、応募受付、審査、フィルタリング、候補者と代理店との連絡、応募者の審査と調査、オファーと交渉、記録管理など、従業員のリクルート、ソーシング、選考を決定し、処理することができます。過去の従業員も含むことができる。
	従業員の移行と離職	海外赴任、再赴任、再派遣、昇進／降格、離職、再就職支援、休職、本国送還、退職などのプログラムの管理・運営を含む、垂直的、水平的、地理的、任務的、構造的な性質を持つ従業員（およびあまり一般的ではないベンダーのスタッフ）の異動を管理できる。

カテゴリー	名称	説明
	労働力管理	従業員分析・報告、照会・解決、雇用確認、人事データ・情報、従業員定着・モチベーション指標の更新・更新、勤怠管理システムとの連携など、従業員に焦点を当てたプロセスや情報の管理が可能です（実際の調査やアセスメント実施などの項目を除く）。
	パフォーマンス、リテンション、報酬管理	従業員のモチベーションを維持し、キャリアパスの成長を可能にすることを目的とした、報奨、動機付け、認知のためのプログラムの枠組みを作成し、管理・運営を行うことができる（分配を含む）。
	ベネフィット・マネジメント	従業員福利厚生、福利厚生プラン、従業員加入、請求、資金調達、資格取得の管理、運営、処理を可能にし、分析と計画、プロバイダーの選択、従業員コミュニケーションと教育、法規制の遵守を含みます。
	政策管理	行動基準、企業および法的な人事コンプライアンスと違反、スキルとコンピテンシー、およびリソースのパフォーマンス、報酬と移行を設定および管理する目的で、戦略、基準、およびサポートポリシーを作成することができます。モデリング、分析、レポートを含むワークフォースポリシーの計画、監督、実施を含む。
	従業員開発	従業員（およびあまり一般的でない請負業者／プロバイダー）がスキル、知識、および／または能力開発、および教育を受けられるようにする。これには、新入社員のオンボーディング／オリエンテーション、技術またはビジネススキルのトレーニング、安全、セキュリティ、行動、倫理およびコンプライアンスに関するトレーニング、手続きおよびその他の法的または組織的な側面が含まれる。（従業員の異動に伴う教育は除く）。また、プログラムやコースの作成、提供、管理、報告も含まれます。
	従業員コミュニケーション	組織全体における水平的または垂直的な従業員エンゲージメントの促進、意識向上（新しい方針、慣行、その他関連する社内外の出来事や行動など）、満足度やエンゲージメントのレベルおよび推進要因の評価。



カテゴリー	名称	説明
ベンダーと調達		調達戦略の策定、ベンダーの選定、契約交渉、資材・サービスの発注、継続的なベンダーと契約の管理など、事業に必要な物品やサービスの調達を可能にする。
	調達と購買	承認された調達先から商品やサービスを調達するための戦略、基準、プロセスを作成できるようにする。 サプライヤーの評価とソーシングを含む購買活動のアプローチ、方針、ガイドラインを記述した調達プロセスを確立する。価格パフォーマンスを継続的に改善するための調達関係を構築する。購買活動、基準、価格、バリューチェーンやサプライヤーへの影響を再評価し、評価する。
	サプライヤー管理	サプライヤーの選択肢を評価し、最も効果的、効率的、低リスクのサプライヤーを選択できるようにします。選択したサプライヤーを検証する。社内外のデータ、分析、フィードバックを利用して、戦略的サプライヤーと非戦略的サプライヤーをランク付けし、管理することで、サプライヤーの支出および生産高を最適化する。また、調査や研究活動も含まれます。
	契約管理	ベンダーの契約の取り込みと管理を可能にする。定期的な評価により、契約を常に最新の状態に保つ。更新、期限切れ、価格変更、数量基準、その他の知識を主要な利害関係者に積極的に広め、適切なリードタイムを提供し、サービス低下や予期せぬ支出を回避する。
健康、安全、セキュリティ、環境		方針、監督、健康管理、労働安全、脅威評価など、組織、環境、地域住民に安全な環境を提供するためのマネジメントを可能にする。
	政策とガバナンス	個人と環境の安全衛生に関する望ましい結果、義務、行動、影響を決定できるようにする。HSSEプログラムの作成と実施HSSEプログラムについて従業員を訓練し、教育する。HSSEプログラムを監督・管理する。
	監督と執行	以下に関するポリシーの遵守と執行活動（調査を含む）の監視・監督を可能にする。 。

カテゴリー	名称	説明
		環境、衛生、安全基準が、定義されたプロセス、規制、法律から外れた活動を行う場合。
	ヘルスケアサービス	現場での保健サービスの提供を含め、予防的健康と基本的な治療を促進するために、労働者に／労働者によって提供される保健サービスの定義と構成を可能にする。
	労働安全	従業員、請負業者、またはその他の第三者の、業界固有または役割に関連した個人の健康と安全に影響を及ぼす可能性のあるリスクと機会をプログラムの的に評価し、管理できるようにする。地域や国の管理機関の要求に従い、必要なコンプライアンスと報告を行う。
リスク、監査、コンプライアンス	経営陣が事業のリスクを積極的に測定・軽減し、規制要件を確実に遵守できるようにする。	
	リスク管理	組織全体の包括的な枠組み、管理活動、方針、関連する手順や要件を確立し、継続的な懸念事項、状態、製品またはサービスの存続性、成長性、パフォーマンス、健全性、安定性、競争力、準備、または評判に悪影響を及ぼす可能性のあるリスクから身を守ることができるようにする。セクター、組織、業務、コンプライアンス、データ、個人情報保護、サイバー、スパイ、地政学など、あらゆるリスクの側面を含むがこれらに限定されない、リスクの特定、検出、評価、監視、伝達、および組織のあらゆるレベルにわたるリスク管理活動の確実にする。
	侵害管理と修復	侵害の評価、影響と原因の推定、封じ込め、修復のための努力と活動を管理することができる。これには、政府機関や組織の業務に関連する是正活動に特化した適切な専門サービス会社と協働して、是正活動計画を作成することが必要になる場合もある。継続的な能力／プロセスの一部として組み込まれるよう、リスクマネジメントが実施するための新たな推奨事項の作成を含む。
	事業継続計画と管理	社内外のあらゆる混乱、脅威、事象に迅速に適応し、対応するために必要な計画、プロセス、リソースを可能にする。

カテゴリー	名称	説明
	監査	内部統制を管理するために、内部統制の仕組み、方針、手順の内部または外部の計画、準備、実行、見直しを可能にする。観察、レビュー、インタビュー、事実調査、および実施すべき統制活動の推奨と設計の作成を含む。統制の有効性を監視・検証し、統制の不備を是正し、コンプライアンス機能を実現する。また、内部統制に関連した活動を可能にする技術やツールの導入や保守も含まれる。
	調査	標準業務手順違反のフォローアップを可能にし、違反の影響を特定、特定、理解する。調査には、検索、調査、インタビュー、証拠収集、データ保存、さまざまな調査方法、調査結果および観察結果の収集と文書化、報告などが含まれる。
	記録管理	作成または記名の時点から、アクセス、最終的な廃棄に至るまで、ライフサイクル及び状態／形態を通じて、組織内のコード化された情報を管理することを可能にする。これには、デジタルおよび物理的なものを含む記録の識別、分類、保管、保護、検索、追跡、破棄または永久保存が含まれる。
リーガル	ディスカバリー、訴訟、契約審査、知的財産保護など、組織のガバナンスと運営をサポートする法律顧問を可能にする。	
	法律顧問	組織のメッセージング、製品、事業運営を管理するための法律理論、法律、規制、知識の実践的な適用を含む、法律を遵守するためのガイダンスと法律実務を提供することができる。これには知的財産、ブランド価値、機密情報の保護（訴訟を含む）および防御、企業および個人の法的責任（物理的または環境的損傷、サイバーなど）、その他多くの形態や法律の適用が含まれます。
	ケースマネジメント	案件管理、時間と請求、書類の完成と提出、案件状況のモニタリング、ヒアリングとミーティングのスケジュール、時間と請求、訴訟サポートのオーケストレーション、コラボレーションとコミュニケーション、記録の保管と検索など、法律案件の（主に）事務的なライフサイクルを管理することができます。

カテゴリー	名称	説明
	契約見直し	すべての当事者が納得できるような契約書の最終案を作成するために、条件の検討や交渉を行うことができる。契約には、秘密保持契約、マスターサービス契約、業務明細書、その他の種類の契約が含まれる。
物件・施設	経営陣が、開発・スペース計画、物理的セキュリティ、職場サービス、車両管理（物流以外）、給食サービス、施設・設備のメンテナンスなど、組織のための施設を提供できるようにする。	
	開発とスペース・プランニング	組織のために、不良不動産または正常不動産（所有かリースかを問わない）の使用、サービス、取得、建設または増築を計画することを可能にする。直接的な収入をもたらすかどうか、あるいはスタッフ、設備、在庫を置くかどうかかわからない不動産や資産の建設や設置のための、計画、承認、用地取得の実行。購入した不動産を取得、開発、管理するための長期的ビジョン、戦略、基準の作成。 /リース/保有する不動産および設備
	ワークスペース・サービス	ワークスペースと関連資産のプロビジョニング、およびプロビジョニング作業の管理を可能にする。オフィス、シェアードコミュニティ、または軽工業スペースを、要件（テーブル、椅子、ソファ、モニター、AV機器、プライバシースクリーン、キュービクル、ドア、家電製品、照明、ケーブル配線、棚、ラックなど）に従ってオーケストレーションおよび/または設置する。大規模な産業/工場建設向けではない。物理的セキュリティは除く。
	物理的セキュリティ	物理的な障壁の存在、従業員の認証と承認、有人または無人の可視または非可視のセキュリティサービスを通じて、財産、施設、設備、人の物理的な安全を管理できるようにする。
	運営、メンテナンス、修理、改善	予防的、定期的、重要なメンテナンス作業の計画、管理、実施、および既存の施設や設備の臨時的改善を通じて、生産的資産の保全と改善を可能にする。
	フリートマネジメント（物流以外）	労働力の移動をサポートするために使用される車両の管理を可能にし、車両の融資、メンテナンス、テレマティクス、およびスケジューリングを含むことができる。車両には、自動車、バン、トラック、電動カート、自転車、その他の輸送形態が含まれる。輸送は含まれない。

カテゴリー	名称	説明
		組織の製品またはサービスの出荷に関連する。 サービスを提供する。
	フード&ビバレッジ	組織の従業員が消費する、現場での飲食サービスの提供・管理を可能にする。
コーポレート・コミュニケーション	経営陣が、広報、ステークホルダーとの関係、政府との関係、渉外、地域社会への働きかけなど、利害関係者の好意的な見方を生み出すことを目的とした社内外のコミュニケーションを指揮できるようにする。	
	ステークホルダーとの関係	投資家、政府、産業界、会、一般市民など、企業のステークホルダーとの対外的な関係の醸成を可能にする。顧客管理とは関係ない。
	政府関係	政府や業界の代表者との関係を構築し、維持することができる。地方、地域、国、世界レベルでの公共政策や政府政策を説得することができる（政府の規制に従う）。
	外部コミュニケーション	メディアとの関係構築と管理を可能にする。ジャーナリストとのコネクションを構築し、製品、問題、サービス、または組織に対する重要な第三者の推薦を求める。
	コミュニティ・アウトリーチ	地域社会との関係の構築と管理を可能にする。相互理解、信頼、支援を育むために、組織が活動し、リソースを引き出している環境を構成する人々とのビジネス上のつながりを確立する。積極的かつ地域志向の方法で組織のイメージを促進するプログラムを作成する。

### ビジネスレイヤービジネスユニットとビジネス能力

標準的なタクソノミーの階層構造の最上位には、ソリューションの消費者、ソリューションによって実現されるビジネス・プロセスと能力、ソリューションが提供する製品とプラットフォームのいずれかを表す、3つの異なるタイプのオブジェクトがあります。これらは下図に示されている。



図8: TBMの分類法 事業部門、ビジネス・アーキテクチャ、顧客とパートナー

TBM協議会は、特定のビジネスユニット、アーキテクチャ要素、製品、定義していない。しかし、以下の定義は、タクソノミーの利用者がそれぞれの組織に特有のものを定義するのに役立つ:

ビジネス・オブジェクト	サブオブジェクト	説明
事業部門		ソリューションを消費する部門、事業部門（LOB）、部門、関連会社、その他の法的または組織的なエンティティ。チャージバックにより、消費に対する課金が行われることもある。通常、ITに資金を提供する事業体とみなされ、企業のITリソースの方向直接的な発言権を持つことが多い。独自の技術チームやリソースを持つこともある。
	収益創出	企業の収益を生み出す責任を負い、そのため独自の損益計算書または「P&L」（損益報告書）を保持するユニット。多くの場合、企業などの非収益事業部門からサービスを消費する。
	非収益部門	直接収益をもたらさず、独自の損益計算書を保持しないユニット。多くの場合、収益を生み出す事業部門にサービスを提供する。
ビジネス・アーキテクチャ		収益創出、コスト削減、生産性向上など、企業のパートナー、サプライヤ、顧客から見て企業業績を向上させるようなビジネス成果を推進する企業の能力を表す。多くの場合、ビジネスユニットにまたがり、ソリューションによってサポート（自動化、情報提供、制御など）される。同じ業種の企業間で類似している場合もあるが、ほとんどの場合、各企業に固有のものである。
	事業能力	ビジネス成果を推進するために企業が何を行うかを表すが、どのように行うかは表さない。エンタープライズアーキテクトが定義し文書化することが多く、サードパーティの方法論（The Open Group Architecture Framework、Federal Enterprise Architecture Framework、BIAN Service Landscapeなど）を活用することもある。
	ビジネスプロセス	企業がどのようにビジネス成果を推進するかを表す。ビジネスアナリストやビジネスプロセスオーナーが定義・文書化することが多く、サードパーティの成果物（APQCプロセス分類フレームワーク、ビジネスプロセスフレームワーク-eTOMなど）を活用することもある。多くの場合、役割と責任、業務の流れが規定される。

ビジネス・オブジェクト	サブオブジェクト	説明
お客様とパートナー		IT/技術プロバイダーの内部顧客やパートナーではなく、企業の顧客やパートナーを指す。顧客とは、企業が主にサービスを提供するために存在し、そこから収益やその他の資金（政府からの資金、寄付など）を得ている個人（B2B）および企業（B2C）を指す。パートナーとは、ビジネス成果を推進するために企業が協力する外部の事業体を指す。
	製品ライン	企業が顧客やパートナー（再販業者など）を通じて提供する製品やサービスのグループ。多くの場合、ソリューションの上に（あるいはソリューションの外に）直接構築されるテクノロジーベースの製品やサービスを指すが、非テクノロジーベースの製品やサービスを提供するために必要なソリューション関連のリソースを表すこともある。（非テクノロジーベースの製品やサービスは、多くの場合、代わりに収益を生み出すビジネスユニットによって表される）。
	デジタル・プラットフォーム	企業の顧客やパートナーと直接関わり、サービスを提供するために使用されるシステムまたはシステムの組み合わせ。物理的な製品の販売促進や、顧客や見込み顧客、その他の外部ユーザーを社会的に関与させるために使用されるモバイルアプリベースのプラットフォームが含まれる場合がある。

## TBM分類法の範囲と追加定義

TBM分類法は、TBMモデルの何を定義するものであり、どのように定義するものではありません。さらに、TBM協議会は、TBM分類法の適用範囲に含まれるものを限定的に捉えているため、TBM分類法は、TBM専門家とその利害関係者が意思決定に必要とするすべての次元と対象を反映していない。

この範囲外のアイテムの主な例は、プロジェクト、エピック、開発バリューストリームなどの投資関連オブジェクトである。多くのTBMリーダーは、これらのオブジェクトと、プロジェクト・ポートフォリオ管理（PPM）やアジャイルライフサイクル管理（ALM）スイートなどのツールからの関連データを使用してTBMモデルのコスト配分をサポートしている。また、これらのオブジェクトのコストに関するレポート（例えば、プロジェクトのコストや価値の流れに対する支出の割合）を作成する人も多い。これらのオブジェクトがTBMのタクソノミーに含まれていないことを、価値判断として解釈してはならない。むしろ、これらのオブジェクトは、ソリューションの生産、強化、維持よりも、仕事の進め方に関係しているため、現在のところタクソノミーの範囲には含まれていない。

TBM分類法の範囲外の定義で、ここで注目し定義しておく価値のあるものがある。これらは分類法には示されていないが、TBMモデルによって提供され、意思決定に使用されるレポートの中にしばしば存在する。

### 固定費と変動費

すべてのコストには、そのコストの基礎となる原動力があります。リソース（タワー）、アプリケーション、サービス、または製品の総コストを決定する単位です。例えば、ストレージ（つまりギガバイト）を多く購入すればするほど、支払いは高くなる。しかし、少なくとも短期間（例えば1年未満）では、ビジネス・アウトプットの増減によってコストの原動力が変化しないこともある。例えば、今後3ビジネス需要を満たすのに十分なストレージハードウェアを購入した場合、ビジネス量が変動しても、ストレージコストはその3年間で大きく変わることはない。

事業量とコストの関係を知ることは非常に有益です。そのため、固定費と変動費を事業量との関係で定義します：

- **固定費**は、事業量に応じて大きく変動するものではない。事業量が減少しても固定費は下がらないため、財務の俊敏性を阻害する。資本支出（設備投資）、従業員の雇用、長期固定費契約の締結は、固定費を生み出す傾向がある。所有するインフラストラクチャーやアプリケーションは、保守やサポートに必要な労働力を含め、ほとんど固定費源となることが多い。
- 対照的に、**変動費**は生産量と連動して変化する、つまり事業量と強い相関関係がある。変動費は、ビジネスボリュームが減少すると減少するため、ビジネスリーダーは消費量を変更することでコストを変更することができ、財務の俊敏性をサポートします。契約の内容によっては、パブリック・クラウド・インフラストラクチャのようなサードパーティ・サービスは、企業にとって変動費となる可能性がある。

コストと事業量の関係を評価する際には注意が必要です。もう一度、ストレージを例にとってみよう。医療機関で、医療画像やその他の健康記録を保存している場合、法律で何年も保存することが義務付けられている場合があります。この場合、医療行為が減少したからといって、保管コストが下がるとは限りません。この例が示すように、コストはある方向には固定的（下がらない）であり、別の方向には変動的（上がる）であることがある。



## 直接経費、消費経費、間接経費

原価計算は、ソリューションのような原価計算の対象となるオブジェクトが、どのように他のリソースを消費するか、あるいは他のリソースに依存するか、そしてそれらのリソースのコストを理解することに依存する。専用サーバー上で実行されるアプリケーションは、そのサーバーの全コストを負担しなければならない。しかし、共有リソース（例えば、仮想マシンを実行するハードウェア、複数のアプリケーションをサポートするストレージレイ、複数のソリューションをサポートするチーム）の世界では、その関係は直接的で単純ではないことが多い。

TBMのリーダーたちが、たちのモデルでコストを配分する方法を選択する理由はさまざまある。以下にいくつかの例を挙げる：

- 企業は、（移転価格と呼ばれる方法により）他の税務管轄地の事業部門に請求するために使用される内部価格を正当化する必要があります。この場合、税法と会計原則が適用され、コストが高税率地域に不当に移転されないようにします。
- 企業は、収益を生み出すビジネスユニットの損益（P&L）に影響を与える内部チャージバックに使用するレートを確立する必要がある。ここで、原価計算は公正に見え、実質的に請求書を支払うビジネスユニットのリーダーが理解しやすいもので必要がある。
- CIOは、アプリケーションやサービスなどのソリューションを提供する際のコストに関する説明責任を向上させたいと考えている。この場合、CIOはリーダーたちに、自分たちが合理的にコントロールできるコストに集中し、コントロールできないコストについてはあまり気にしないようにしてほしいと考えるかもしれない。

このような理由から、原価と原価計算の対象との関係を理解することは、原価計算の一貫した方針を定めることと同様に重要である。そのためには、以下の定義を頭に入れておこう：

- **直接コスト**は、コスト対象オブジェクトの所有者の予算または管理範囲内のリソースである。例えば、アプリケーションのオーナーは、アプリ開発者の労働力、ティア3のサポート労働力、およびいくつかのソフトウェアライセンス（例えば、ソフトウェア開発ツール）を予算に入れているかもしれませんが、これらのリソースは、アプリケーションの直接コストを駆動します。アプリケーションの所有者は、これらのリソースを管理し、したがってビジネスに対するコストを管理します。
- **消費されるコスト（consumed costs）**とは、コスト対象物をサポートまたは提供するために使用されるが、他のリソース所有者が所有するリソースのことである。消費コストは、コスト対象物の予算（例えば、コストセンター）には表示されない。しかし、それらのコストの消費は、データソースに明確に反映されます。つまり、その消費は、コスト対象オブジェクトの所有者によって（ある程度）制御可能です。例えば、アプリケーションの消費コストには、構成管理データベース（CMDB）に記録された、アプリケーションに割り当てられたサーバーとストレージが含まれる。これらのサーバーとストレージの予算とコストは、別のリソース所有者に属しますが、アプリケーション所有者は、それらを要求し、アプリケーションに割り当てることで、それらの消費を指示します。
- **間接コスト**とは、他のリソース所有者が所有するリソースで、その消費がデータソースを使用した原価計算対象物に帰属しないものをいう。これらの間接コストはオーバーヘッドとみなされる。例えば、アプリケーションはヘルプデスクに依存しているかもしれませんが、ヘルプデスクチケットは、ヘルプデスクリソースとそれらがサポートするアプリケーションとの関係を示すのに十分な情報を提供しないかもしれません。特に、コスト回収、税務、契約上の義務、またはその他の要求のために、完全な負担コストが必要な場合、合意された方法を用いて間接コストをオブジェクトに配分することは、正当な場合もある。

直接、消費間接の性質は、物、データ、管理方法、会計方針によって異なる。

## 事業の運営、成長、変革のための支出

多くの場合、ビジネスリーダーは、企業が継続的なオペレーションにどれだけの支出や投資をしているのか、ビジネスを成長、改善、変革するための投資にどれだけの支出や投資をしているのかを知りたい。一般的に使用されている定義は、ガートナーが定義した実行／成長／変革モデルである。以下は、これらのカテゴリーに関する実用的な定義である：

- **ラン・ザ・ビジネス（Run-the-Business: RtB）**とは、事業の継続的な運営に使われる支出や投資を指す。営業支出と資本支出の両方が含まれる。対象となる営業支出には、社内外の人件費、資産の減価償却費及び償却費、施設費、光熱費、電気通信サービスなどが含まれることが多い。資本的支出には、事業の成長または変革に該当しないハードウェアの更新またはアップグレードが含まれる。ほとんどが非裁量的支出を含むが、研修や出張など一部の裁量的支出もラン・ザ・ビジネスとなる場合がある。コンプライアンス、安全性、リスク投資などの強制的な支出も、ほとんどがラン・ザ・ビジネスとなる。
- **グロウ・ザ・ビジネス（GtB）**とは、既存または補完的な市場や製品ラインにおいて、事業量および／または収益および／または利益を増加させるための支出や投資を指す。営業支出と資本支出の両方が含まれる。対象となる営業支出には、多くの場合、資産化が始まる前に発生するプロジェクト支出や、生産能力を高めるために採用される追加的な経営資源が含まれる。対象となる資本的支出には、事業成長を直接的に可能にする、生産能力増強などの新たな資産の購入及び／又は開発が含まれる。これは、Change-the-Business 支出の中のサブセットである。
- **トランスフォーム・ザ・ビジネス（TtB）**とは、企業の長期的な競争力や成長機会を向上させるための支出や投資を指す。革命的な調達モデルの採用、新市場への参入、飛躍的な効率性の向上、あるいは従来とは大きく異なる新商品やサービスの迅速な立ち上げなどを可能にするという意味で、ゲームチェンジャー的な投資を意味する多い。営業支出と資本支出の両方が含まれる場合もある。対象となる営業支出には、多くの場合、資産計上を開始される前に発生するプロジェクト支出や、事業の変革に分類される追加的な経営資源が含まれる。対象となる資本的支出には、事業変革を直接可能にする新しい資産の購入及び／又は開発が含まれる。

事業の成長（grow-the-business）と事業の変革（transform-the-business）を総称して事業の変革（change-the-business）と呼ぶことがあるが、これは事業の運営（run-the-business）の反対語である。

同様の用語は、実際の実務では他の場所でも使われている。これには、*business-as-usual*（ラン・ザ・ビジネスと同じ）、*run-the-bank*（銀行ラン・ザ・ビジネス）、*operations & maintenance*（またはO&M、米国政府のラン・ザ・ビジネスに類似）、*development, modernization & enhancement*（またはDME、米国チェンジ・ザ・ビジネスに類似）、*maintain and operate the organization, systems and equipment*（MOOSE、Forrester Researchより）などがある。

## 認可された技術と認可されていない技術

多くの企業は、IT部門や事業部門に集中するのではなく、全社的なビジネス・テクノロジーへの支出を管理するためにTBMを利用している。これは、予算の所在に関係なく、技術への支出を透明化することを意味する。例えば、企業のマーケティング部門は、マーケティング技術スタックに多額の資金を費やすかもしれない。TBMは、そのような支出を報告するために使われるかもしれない。

以下の条件は、全社的な支出に適用される：

- **認可されたテクノロジーとリソース**とは、全社的な標準、ポリシー、またはガイドラインに適合し、必要な承認を得た上で適切な手順に従って取得または構築されたことが確認されているものです。これらの標準、ポリシー、ガイドラインは、通常、グローバルCIO、最高技術責任者（CTO）、最高情報セキュリティ責任者（CSO）のいずれか、またはいずれかによって定義されます。さらに、それらはCMDB、ソフトウェア資産管理データベース、プロジェクト管理システムなどの適切な管理システムに文書化されている。そのため、TBMモデルを使えば、より簡単に報告することができます。
- **認可されていないテクノロジーとリソース**とは、存在することは知られているが、企業の標準、ポリシー、またはガイドラインに適合していないものである。これには、古くなったためにセキュリティ標準を満たさなくなったシステムも含まれる。また、最近導入されたものの、要件を満たしていないシステムも含まれる。シャドーIT、つまりグローバルCIOの組織に知られることなく購入または構築されたテクノロジーも、実施されている標準、ポリシー、ガイドラインの多くを満たしていても、認可されていないと見なされます。

TBMの分類法は、「IT」とみなされるものの範囲を定義することで、このような種類に対処するのに役立ちます。調達担当者は、この分類法に精通し、この分類法の範囲に適合する製品やサービスの購入要求に注意する必要があります。未承認のリソースは、企業にとってコンプライアンスやセキュリティのリスクとなるだけでなく、テクノロジーへの真の投資や支出を把握することを困難にする。

TBMを全社的な技術管理のために使用する場合、認可されていない技術支出とリソースの透明性を高めることに注意を払わなければならない。企業におけるすべての購入は財務を経由するため、TBMは、未承認の支出を特定し、それをコンプライアンスに戻す能力を提供する。

## TBM分類法の拡張

拡張性はTBMタクソノミーの設計原則の一つです。拡張性により、企業は標準的なTBMタクソノミーを使用しながら、標準との互換性を維持したまま、業界または組織特有のタクソノミーの拡張を可能にすることができます。サポートされる拡張には、既存の標準的なカテゴリの定義と意味に抵触しない新しいカテゴリやサブカテゴリの追加が含まれる。これにより、組織は、既存の標準カテゴリに属さない独自の技術（例えば、ヘルスケアにおける医療機器、石油・ガスにおけるSCADA機器、銀行における現金自動預け払い機）のコストを分離することができる。これにより、コストを独立して追跡することができ、既存の標準カテゴリの定義を崩すことはない。

TBMタクソノミに対する変更のうち、サポートされず、エクステンションとみなされないものには以下のようなものがある：

- 既存のカテゴリを2つ以上のカテゴリに分割し、元のカテゴリの定義を変更する
- 2つのカテゴリを1つのカテゴリに統合
- 公表されたスタンダード・カテゴリの定義と構成の変更

この種の延長を認めない主な理由の一つは、業界ベンチマークへの影響である。定義や予想されるコスト構成に変更が加えられた場合、業界ベンチマークの値はもはや適切でなくなり、比較できなくなる。

エクステンションとしてサポートされない変更の例には、以下が含まれる：

- 企業データセンターのサブタワーを *自社所有データセンター*と*共同立地データセンター施設*に分割すること。より良い解決策は、オプションのサブタワー要素（レベル3）を使用して、これらのコストを区別することである。
- データベースとミドルウェアを1つのサブタワーに統合。サブタワーの1つが組織の環境において、その材料を使用したり、その材料にコストを割り当てたりしてはならない。
- 音声サブタワーの定義を変更し、音声機器と音声通信コストの両方を含める。通信コストはトランスポート・サブタワーに残す。

TBMタクソノミーを拡張する必要、業種によって傾向があります。このような垂直業界のニーズに対応するため、TBM Councilは、標準化委員会や分科委員会に属さないカウンスルメンバーの貢献を活用しながら、業界ベンチマークのサポートなど、標準タクソノミーの特定の属性を維持するのに役立つ正式なメカニズム（TBM Council Vertical Industry Workgroups）を通じて、TBMタクソノミーの拡張をサポートしています。

業種別拡張の背後にある包括的な原則は、標準的なTBM分類法はそのままであるということです。最下層のコストプールやサブプールからタワーズ、さらにはソリューション（特にインフラストラクチャー、プラットフォーム、デリバリーのテクニカルソリューション）に至るまで、タクソノミーの大部分はあらゆる業界のIT組織に適用することができます。しかし、業界固有の拡張は、主にビジネス・ソリューションのために、これらの標準要素に追加され、固有の要件に対応する。

このように、TBMタクソノミーの拡張は、標準TBMタクソノミーv3.0への追加であり、変更ではない。例えば、ヘルスケアプロバイダーは、財務計画、固定資産、TBMタクソノミーで定義されている標準的なシェアード&コーポレートソリューションの多くを引き続き使用することになりますが、ヘルスケアワークグループで定義されたビジネスソリューションの多く（場合によってはすべて）も使用することになります。これには、臨床サービス、患者サポート&エンゲージメントなどのソリューションカテゴリーや、心臓病学、腫瘍学、フードサービス、患者ポータルなどのソリューション名が含まれる。

TBM協議会は、この目的のためにTBM Taxonomy Extension Kit (TEK)をワークグループメンバーに提供しています。これには、ワークグループリーダーのためのガイド、テンプレート、TBM協議会の標準化委員会内のサポート連絡先が含まれています。

Taxonomy Extension Kitの詳細については、[teksupport@tbmcouncil.org](mailto:teksupport@tbmcouncil.org) お問い合わせください。

## 技術経営協議会について

テクノロジー・ビジネス・マネジメント (TBM) 協議会は、ITのビジネスを管理するための決定的なフレームワークの開発に焦点を当てた非営利の事業体です。世界で最も革新的な企業の多様なグループのビジネス・テクノロジー・なる理事独立した会によって運営されている。TBM評議会は、組織の特徴、管理規律、共通の分類法、測定基準を含む一連のツールとベストプラクティスを確立した。メンバーは、協議会の研究、標準、教育提供、コミュニティ活動を通じて、TBMの理解を深め、貢献することが奨励されています。会員は、年1回開催される世界会議、地域会議、オンライン・コミュニティを通じて、同業者との協力関係を築いています。

## TBM評議会基準委員会について

標準委員会は、TBM 協議会スタッフと協力し、TBM 分類法やTBM KPI/指標を含むがこれに限定されない、TBM 標準の開発と維持を監督、レビュー、管理する。委員会はTBM 評議会理事会に報告し、説明責任を負う。委員会は、標準の開発に関して理事会に情報を提供する責任があり、また、すべてのTBMカOUNCILメンバーが閲覧、使用、コメントできるように標準を文書化し、公開する責任があります。

委員会は、委員長（アティカス・タイセン、インテュイットSVP兼CIO）、業界からの投票権を持つメンバー、連邦政府リエゾン（投票権なし）、業界アドバイザーで構成されている。詳細は<https://www.tbmcouncil.org/about/standards-committee/>。